

令和5年度 教育課程表 (1年次)

講座番号	講座名	実施時期	区分	種別	1年		農学科						畜産学科				
					単位	時間	作物	野菜	花	果樹	茶	農フード	畜フード	肉用牛	酪農	養豚	
L101	ルビナスの時間 I	全	必修	実習	1	30	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
U102	英会話 I	前	履修	講・演	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
U103	保健・体育 I	全	履修	講・演	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
P104	実用数学	前	選択	講・演	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
P105	英語特別講義 I	特	選択	講・演	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
P106	小論文演習 I	後	選択	講・演	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
P107	就職対策 I	後	選択	講・演	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
P108	情報処理演習	前	選択	講・演	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
M301	アグリビジネス (2年間必修)	1-2全	必修	講・演	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
R101	農業生産工程管理 I	前	必修	講・演	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
R102	インターンシップ I	前	必修	実習	1	30	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
R103	自主企画研修	後	必修	実習	4	120	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
R104	総合実習	前	必修	実習	3	90	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
S105	農業機械基礎	前	履修	講・演	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S106	大型特殊機械演習	全	履修	講・演	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
S107	農業経営	後	履修	講・演	1	15	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
T108	農業機械	後	選択	講・演	1	15	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
T109	会社経営 I (選)	後	選択	講・演	1	15	▲	▲	▲	▲	▲			▲	▲	▲	▲
T110	食品衛生/食品表示 (選)	全	選択	講・演	1	15	▲	▲	▲	▲	▲			▲	▲	▲	▲
T111	ドローン操作演習	特	選択	講・演	2	30	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
A101	専攻実習 I (農)	全	必修	実習	9	270	◎	◎	◎	◎	◎						
A102	スマート農業基礎 (農)	全	必修	講・演	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
A103s	作物の専攻特別実習 I	全	必修	実習	2	60	◎										
A103y	施設野菜の専攻特別実習 I	全	必修	実習	4	120		◎									
A103h	花きの専攻特別実習 I	全	必修	実習	4	120			◎								
A103k	果樹の専攻特別実習 I	全	必修	実習	4	120				◎							
A103c	茶の専攻特別実習 I	全	必修	実習	2	60					◎						
A104	農業概論	前	必修	講義	1	15	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
A105	土壌肥料基礎	全	必修	講・演	1	15	◎	◎	◎	◎	◎						
A106s	作物の栽培管理	全	必修	講・演	1	15	◎										
A106y	施設野菜の栽培管理	全	必修	講・演	1	15		◎									
A106h	花きの栽培管理	全	必修	講・演	1	15			◎								
A106k	果樹の栽培管理	全	必修	講・演	1	15				◎							
A106c	茶の栽培管理	全	必修	講・演	1	15					◎						
B107	農業簿記等資格取得対策 I	全	履修	講・演	1	15	○	○	○	○	○	○					
B108	先進農業事例研究	全	履修	講・演	1	15	○	○	○	○	○						
B109	茶の加工	全	履修	講・演	1	15					○						
B110	栽培環境	全	履修	講・演	1	15	○	○	○	○	○						
B111	病害虫基礎	全	履修	講・演	1	15	○	○	○	○	○						
B112	GAP演習 I (農)	全	履修	講・演	1	15	○	○	○	○	○						
Z101	専攻実習 I (畜)	全	必修	実習	9	270								◎	◎	◎	◎
Z102	専攻特別実習 I (畜)	全	必修	実習	5	150								◎	◎	◎	◎
Z103	畜産概論	前	必修	講・演	1	15							◎	◎	◎	◎	◎
Z104	スマート農業基礎 (畜)	全	必修	講・演	1	15							◎	◎	◎	◎	◎
Z105	家畜の栄養と飼料	全	必修	講・演	2	30								◎	◎	◎	◎
Z106	家畜の飼養管理	後	必修	講・演	1	15								◎	◎	◎	◎
Z107	育種と繁殖 I	全	必修	講・演	2	30								◎	◎	◎	◎
Y108	人工授精演習	後	履修	講・演	1	15								○	○	○	○
Y109	GAP演習 I (畜)	後	履修	講・演	1	15								○	○	○	○
Y130	削蹄講習 (2年間履修)	1-2全	履修	講・演										○	○	○	○
X111	農業簿記	全	選択	講・演	2	30								▲	▲	▲	▲
F101	専攻実習 I (フ)	全	必修	実習	7	210					◎	◎					
F102	専攻特別実習 I (フ)	全	必修	実習	5	150					◎	◎					
F103	食品製造 (理論)	後	必修	講・演	1	15					◎	◎					
F104	会社経営 I (フ)	後	必修	講・演	1	15					◎	◎					
G105	食品衛生/食品表示 (フ)	全	履修	講・演	2	30					○	○					
G106	食品化学 I	後	履修	講・演	1	15					○	○					
G107	食品製造実習 I	後	履修	実習	1	30					○	○					
G108	食品の機能性	後	履修	講・演	1	15					○	○					
G109	フードビジネス I	後	履修	講・演	1	15					○	○					
G110	微生物活用 I	後	履修	講・演	1	15					○	○					
G111	マーケティング I (フ)	全	履修	講・演	1	15					○	○					

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	L101/L201	ルピナスの時間Ⅰ、Ⅱ	学科名	全学科	学年	1・2年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	1	時間数	30	開講時期	4月～3月
科目の概要	農業大学校及び各学科や専攻での活動をより効率的に行うため、地域に向けた活動を通じて、農業人として必要となる知識や技能・技術を学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農業大学校及び各学科や専攻での活動をより効率的に行うための活動や、地域に向けた活動を通じて、農業人として必要となる基礎知識や技能・技術を習得する。								
使用教材	講師作成資料等								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席 (20点)		受講態度 (減点)			
	基準	各時間での知識の習得状況について、各職員が確認し採点する。	各時間の取り組み及び技術習得状況について、各職員が確認し採点する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内容					時間	備考		
1～30	農業大学校及び各学科や専攻での活動をより効率的に行うための活動等					30			
	○学科や専攻毎等に分かれて実施								
	○学生自治会の所属する班等で実施								
授業時間外に必要な学修	内容によっては事前準備等。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	U102	英会話 I	学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期 4月～7月
科目の概要	基礎的な英語の能力、技能を養う							
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	海外研修における簡単なあいさつ、日常会話ができるようになる							
使用教材	講師の準備する資料、おもてなしチャンツ、QA-50							
成績評価	方法	知識 (90点)		出席率 (10点)		受講態度 (減点)		
	基準	インタビューテスト、リスニングテストにより90点満点で評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)								
回	内 容					時間	備 考	
1	英会話 1 (bananaチャンツ、クラスガイダンス)					1		
2	英会話 2 (Welcome to japan、Unit1)					1		
3	英会話 3 (Just one word、Unit2)					1		
4	英会話 4 (Asking Questions、Unit3)					1		
5	英会話 5 (Breakfast Lunch、and dinner、Unit4)					1		
6	英会話 6 (Showing the Way、Unit5)					1		
7	英会話 7 (Review1-5まとめ①、QAテスト①)					1		
8	英会話 8 (Review1-5まとめ②、QAテスト②)					1		
9	英会話 9 (Going Shopping、Unit6)					1		
10	英会話 10 (Quick Responses、Unit7)					1		
11	英会話 11 (I love Japan、Unit8)					1		
12	英会話 12 (Welcom to our School、Unit9)					1		
13	英会話 13 (Welcom to My Home、Unit10)					1		
14	英会話 14 (Review6-10まとめ①、QAテスト③)					1		
15	英会話 15 (Review6-10まとめ②、QAテスト④)					1		
授業時間外に必要な学修								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。							

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	U103 U203	保健・体育Ⅰ、Ⅱ	学科名	全学科	学年	1年,2年	学期	全期		
授業の方法	講義・演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～11月	
科目の概要	生涯スポーツの実践や健康について、理論と実践を通して学ぶ。									
講師名	農業大学校職員、外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	各スポーツの実践を通じて運動技能を高め、チームに貢献できる能力を養う。保健では、自らの健康・安全についての理解を深め、健康を保持するための能力を養う。									
使用教材	農大施設 講師の準備する教材									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	講義終了後のレポートにより評価する。演習状況も知識の一部として勘案する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1,2	各スポーツの基本技術習得と実践、体育の時間2時間×4日					2				
3,4										
5,6										
7,8										
9～14	球技大会					6				
15	生涯を通じる健康についての講話					1				
授業時間外に必要な学修										
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	P104	実用数学		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	高校までに学んだ数学力を、農業の現場で生かすために必要な考え方・使い方を身に付ける。								
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農業における作付け計画から栽培管理、収穫量測定その他、データ分析に必要な知識と対応力を身につける。各授業における理解度によって時間調整を行う。								
使用教材	講師が農業高校で使用する教科書等の内容から独自の内容を作成し使用する。								
成績評価	方法	知識 (テスト)	知識 (小テスト)	出席		取組 (態度等)			
	基準	80点 学習した内容を理解しているか評価する 100点満点の評価を80点(%)に換算する	10点 前時の復習で5問のテストを行い、平均点×2点で評価する。 (例) 5点+5点+5点+5点+5点÷5回×2点	5点 出席率 (%) を出し、5点満点で換算する。 100～90% 5点 89～80% 4点 79～60% 3点 59～40% 2点 39以下 1点		5点 ・授業中の態度 (減点:私語、居眠り、スマホ) ・課題等の取組 ・質問に対する回答する態度等 (間違った回答でも良い)			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	植物の生長、発芽率計算					1	事前説明、講義		
2	前時の復習 (小テスト)、イネの生育、登熟歩合・秀比率計算					1	講義、小テスト		
3	前時の復習 (小テスト)、植物の生長と温度、日長の測定等					1	講義、小テスト		
4	前時の復習 (小テスト)、溶液濃度計算 (倍溶液、%溶液、ppm濃度)					1	講義、小テスト		
5	前時の復習 (小テスト)、農薬の種類、農薬計算					1	講義、小テスト		
6	前時の復習 (小テスト)、農薬計算					1	講義、小テスト		
7	前時の復習 (小テスト)、面積計算、定規・巻き尺等の活用術					1	講義、小テスト		
8	前時の復習 (小テスト)、栽植株数計算					1	講義、小テスト		
9	前時の復習 (小テスト)、栽植株数計算					1	講義、小テスト		
10	前時の復習 (小テスト)、肥料、肥料 (単肥) 計算					1	講義、小テスト		
11	前時の復習 (小テスト)、肥料 (複合肥料) 計算					1	講義、小テスト		
12	前時の復習 (小テスト)、肥料 (複合肥料) 計算					1	講義、小テスト		
13	前時の復習 (小テスト)、肥料 (複合肥料+単肥) 計算					1	講義、小テスト		
14	前時の復習 (小テスト)、肥料 (複合肥料+単肥) 計算					1	講義、小テスト		
15	評価試験					1	テスト		
授業時間外に必要な学修	計算問題ばかりでなく、そこに必要な農業に関する基礎知識等を説明する。								
再試験及び補習対象の実施基準	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストで理解状況が悪い学生には別途指導する場合あり。 ・試験 (ペーパー) で正答率が50%以下の場合、正解を公表後に期日指定で再試験 (ペーパー) を行う。 								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	P105 P205	英語特別講義Ⅰ・Ⅱ		学科名	全学科	学年	1、2年	学期	特別	
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	8月	
科目の概要	英文読解、和文英訳、時事英語など英語の理解を深め、編入学試験に対応した英語力を身につける。									
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	4年制大学編入学試験に対応できる英語力を身につける。									
使用教材	講師が準備した資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	英文読解、和文英訳、時事英語					1	夏期休業中に実施 (開催日時は、講師決定後に確定)			
2	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
3	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
4	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
5	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
6	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
7	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
8	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
9	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
10	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
11	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
12	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
13	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
14	英文読解、和文英訳、時事英語					1				
15	試験、解説					1				
授業時間外に必要な学修	TOEICを受験する。									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									
受講生										

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	P106	小論文演習 I	学科名	全学科	学年	1年	学期	後期	
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	11月～2月
科目の概要	就職試験において必要となる文章表現・スピーチの方法、小論文対策								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・エントリーシートの書き方、面接の受け方を身につける ・進学に必要な小論文の書き方を身につける 								
使用教材	講師が準備した資料								
成績評価	方法	知識 (90点)		出席率 (10点)			受講態度 (減点)		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0 			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	文章表現・スピーチ①					1			
2	文章表現・スピーチ②					1			
3	文章表現・スピーチ③					1			
4	文章表現・スピーチ④					1			
5	文章表現・スピーチ⑤					1			
6	文章表現・スピーチ⑥					1			
7	文章表現・スピーチ⑦					1			
8	小論文対策①					1			
9	小論文対策②					1			
10	小論文対策③					1			
11	小論文対策④					1			
12	小論文対策⑤					1			
13	小論文対策⑥					1			
14	小論文対策⑦					1			
15	小論文対策試験					1			
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	P107	就職対策 I		学科名	全学科	学年	1年	学期	後期	
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～2月	
科目の概要	就職試験において必要となる文章表現・スピーチの方法、社会一般常識に関する知識を学ぶ									
講師名	小田原丈（一般常識） 愛甲祐子（文章表現・スピーチ）						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就職試験に対応できる社会一般常識を身につける ・エントリーシートの書き方、面接の受け方を身につける 									
使用教材	講師が準備した資料、SPIベーシック									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	文章表現・スピーチ①						1	10/31（火）3限		
2	文章表現・スピーチ②						1	11/7（火）2限		
3	文章表現・スピーチ③						1	11/7（火）3限		
4	文章表現・スピーチ④						1	11/10（金）2限		
5	文章表現・スピーチ⑤						1	11/10（金）3限		
6	文章表現・スピーチ⑥						1	11/14（火）2限		
7	文章表現・スピーチ⑦						1	11/14（火）3限		
8	就職試験対策一般常識①						1	12/5（火）2限		
9	就職試験対策一般常識②						1	12/5（火）3限		
10	就職試験対策一般常識③						1	12/19（火）2限		
11	就職試験対策一般常識④						1	12/19（火）3限		
12	就職試験対策一般常識⑤						1	1/30（火）2限		
13	就職試験対策一般常識⑥						1	1/30（火）3限		
14	就職試験対策一般常識⑦						1	2/6（火）2限		
15	就職試験対策一般常識試験						1	2/6（火）3限		
授業時間外に必要な学修										
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和5年度 授業計画書[シラバス]

科目名	P108	情報処理演習		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義・演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	情報化社会において必要となる、パソコンを利用した基礎的・基本的な情報処理能力を修得し、今後農業に活用できる力を身に付ける								
講師名	農業大学校職員								
到達目標	日検情報処理技能検定2級を取得できる能力を身に付ける。 卒業論文等で活用できる、農業データをまとめる技術を修得する。								
使用教材	日検情報処理検定問題集								
成績評価	方法	知識・技術（90点）		出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	知識や操作技術を問う試験を実施し、理解度を評価する。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・無欠席……………（1.0） ・1回欠席……………（0.9） ・2～3回欠席……（0.8） ・4回欠席……………（0.7） ・5回以上……………未履修			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、授業中のスマホ操作、他の学生への迷惑行為等も減点対象とする。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内容				時間	備考			
1	情報処理能力の確認（入力）及びアンケート調査				1	出席番号	4月12日		
	A		B						
2	excelの基本操作		excelの基本操作		1	能力別	4月19日		
3	excelの基本操作		3級基準の応用活用		1	能力別	4月26日		
4	3級レベル（判断文）		3級基準の応用		1	能力別	5月17日		
5	3級レベル（判断文、絶対参照、構成比率）		表検索の応用		1	能力別	5月31日		
6	3級レベル（端数処理関数、順位付け、ソート）		多重判断文の応用		1	能力別	6月7日		
7	3級基準、グラフ作成		倫理演算子、セル証明の応用		1	能力別	6月14日		
8	表検索の活用		データベース関数の活用		1	能力別	6月28日		
9	表検索の応用		データベース関数の応用		1	能力別	7月5日		
10	多重判断文の活用		データベース関数の応用		1	能力別	7月12日		
11	多重判断文の応用		文字列操作関数の活用		1	能力別	7月19日		
12	倫理演算子、セル証明の活用		文字列操作関数の応用		1	能力別	7月21日		
13	倫理演算子、セル証明の応用		特殊関数の活用、高度なグラフ作成		1	能力別	7月26日		
14	時刻計算等		データ処理の応用		1	能力別	9月6日		
15	知識及び実技試験（2級レベル）		知識及び実技試験（1級レベル）		1	試験	9月13日		
授業時間外に必要な学習	日検情報処理検定1級または、初段保持者については、マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS試験）の資格取得に向けて、課外を行い資格取得を目指す。情報処理の検定については放課後に実施する。 夏休みの課題として、毎年実施されるヤンマー作文コンクール用の原稿を作成し、全員応募する。								
再試験及び補修対象の実施基準	原則として実施はしないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M201 M301	アグリビジネスⅠ・Ⅱ		学科名	全学科	学年	全学年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～1月
科目の概要	アグリビジネス分野で活躍されている経営者や関係機関の専門家を講師として招聘し、アグリビジネスの最前線について学習する。その中で企業にいたるまでの経緯や経営理念等からアグリビジネスを成功させるためのポイントや手法について学ぶ。								
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	アグリビジネスの現状と課題について理解を深める								
使用教材	講師が準備する資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度(減点)		
	基準	講義ごとのレポートにより評価			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	アグリビジネスに関する講話①					2			
2	アグリビジネスに関する講話②					2			
3	アグリビジネスに関する講話③					2			
4	アグリビジネスに関する講話④					2			
5	アグリビジネスに関する講話⑤					2			
6	アグリビジネスに関する講話⑥					2			
7	アグリビジネスに関する講話⑦					2			
8	アグリビジネスレポート					1			
9									
10									
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	R101	農業生産工程管理 I	学科名	農学科	学年	1年	学期	前期		
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月	
科目の概要	農業生産において、消費者から信頼される安全・安心な農産物を提供する手法としてGAPの考え方を学ぶ。									
講師名	農業大 学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	農業生産工程管理（GAP）の考え方を理解させ、具体的なリスク管理を習得させる。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0 			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	GAPの基礎①					1	農業大 学校指導職員			
2	GAPの基礎②					1				
3	国内外のGAPを取り巻く状況					1				
4	GAPの認証と導入					1				
5	リスク分析の考え方					1				
6	生産工程におけるリスク分析					1				
7	農産物取り扱い工程におけるリスク分析					1				
8	労働安全のリスク分析					1				
9	ひなたGAPチェックリストの解説①					1				
10	ひなたGAPチェックリストの解説②					1				
11	ひなたGAPチェックリストの解説③					1				
12	試験					1				
13	AS I A GAPチェックリストの解説①					1				
14	AS I A GAPチェックリストの解説②					1				
15	AS I A GAPチェックリストの解説③					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	R101	農業生産工程管理 I (GAP)	学科名	畜産学科	学年	1年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月～7月
科目の概要	・農業生産活動の持続性を確保するため、①食品安全・家畜衛生・環境保全・労働安全・アニマルウェルフェアに関する法令等を遵守するための点検項目を定め、②これらの実施、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行う取組を学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産GAPについて基礎的な知識を習得する。 ・GAPを理解し、実践する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)		受講態度 (減点)		
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	畜産GAPの基礎と必要性						1	担当講師： 農業大学校職員	
2	畜産GAPの基礎と必要性						1		
3	リスク分析の考え方						1		
4	生産工程におけるリスク分析						1		
5	農産物取り扱い工程におけるリスク分析						1		
6	労働安全のリスク分析						1		
7	GAP現地研修 (住吉フィールド)						1		
8	GAP現地研修 (住吉フィールド)						1		
9	GAP現地研修 (住吉フィールド)						1		
10	GAPチェックリストの解説						1		
11	GAPチェックリストの解説						1		
12	GAPチェックリストの解説						1		
13	GAPチェックリストの解説						1		
14	GAPチェックリストの解説						1		
15	試験①						1		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M105	インターンシップ I		学科名	全学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	1	時間数	30	開講時期	5月下旬
科目の概要	農業生産現場において、栽培・飼育技術や経営概要等について実践的に学ぶ。								
講師名	県内先進農家、農業生産法人等							実務経験のある教員等による授業科目	○
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先進的な農家や農業生産法人における栽培・飼育技術や経営概要を理解する。 ・農業経営者等との交流をとおして望ましい職業観・勤労観を身につける。 								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌 (20点)	研修報告書 (30点)	研修評価書 (30点)	出席 (20点)				
	基準	<ul style="list-style-type: none"> ・日数：2点/1日 ・内容 <ul style="list-style-type: none"> A (良い)2点/1日 B (普通)1点/1日 C (悪い)0点/1日 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出 <ul style="list-style-type: none"> 提出有り：10点 提出無し：0点 ・内容 ※提出のみ採点 <ul style="list-style-type: none"> A (良い)20点 B (普通)10点 C (悪い)5点 	※講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0 				
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1日目 ～ 3日目	<ul style="list-style-type: none"> ・研修先の経営概要について学ぶ。 ・先進農家等の農業に対する考え方や取組について学ぶ。 ・実習をとおして基本的な栽培・飼育技術について学ぶ。 					18時間	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の場合、指導は実務経験のある職員に限定する。 		
4日目 ～ 5日目	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や見学をとおして高度な栽培・飼育技術について学ぶ。 ・講師等との意見交換をとおして、農業経営について情報を収集する。 					12時間	<ul style="list-style-type: none"> ・説明等を講義形式で行う場合がある。 		
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	M107	自主企画研修	学科名	全学科	学年	1年	学期	後期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	10月～11月
科目の概要	高度な栽培技術・飼育技術、最新の加工・流通・販売に関する技術及び関連する経営概要を実践的に学ぶ。								
講師名	県内先進農家、農業生産法人、農産物の加工・流通・販売を行う農業生産法人や一般企業の職員等						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・先進的な農家や農業生産法人における栽培技術・飼育技術や経営概要、農産物の加工・流通・販売に関する技術や経営概要を理解する。 ・農業経営者や農産物の加工・流通・販売の従事者等との交流をとおして望ましい職業観・勤労観を身につける。 								
使用教材	各指導者が準備する資料等								
成績評価	方法	研修日誌 (20点)		研修報告書 (30点)		研修評価書 (30点)		出席 (20点)	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> ・日数：2点/1日 ・内容 <li style="padding-left: 20px;">A (良い)2点/1日 <li style="padding-left: 20px;">B (普通)1点/1日 <li style="padding-left: 20px;">C (悪い)0点/1日 で採点し、0.25を乗ずる。		<ul style="list-style-type: none"> ・提出 <li style="padding-left: 20px;">提出有り：10点 <li style="padding-left: 20px;">提出無し：0点 ・内容 ※提出のみ採点 <li style="padding-left: 20px;">A (良い)20点 <li style="padding-left: 20px;">B (普通)10点 <li style="padding-left: 20px;">C (悪い)5点 		※講師の採点による。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0 	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1日目 ～ 15日目	<ul style="list-style-type: none"> ・研修先が立地する地域農業の概要について学ぶ。 ・研修先の経営概要について学ぶ。 ・研修先の経営や業務に対する考え方や取組について学ぶ。 ・高度な栽培、飼育、加工に関する技術や販売方法について学ぶ。 					90時間	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の場合、指導は実務経験のある職員に限定する。 ・説明等を講義形式で行う場合がある。 		
16日目 ～ 20日目	<ul style="list-style-type: none"> ・高度で実践的な栽培、飼育、加工に関する知識や技術を学ぶとともに販売方法について学ぶ。 ・講師等との意見交換をとおして、経営感覚やリーダーシップを高める方法や地域づくりのビジョン構築等について情報を収集する。 					30時間			
授業時間外に必要な学修	研修日誌の記入及び研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は教務学生課へ申し出ること。その後、別途通知する。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	R104	総合実習	学科名	農学科	学年	1年	学期	前期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	3	時間数	90	開講時期	4月～6月
科目の概要	各専攻品目（作物、野菜、果樹、花、茶、フード）の基本的な栽培管理技術、知識を学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農産物の生産技術や経営技術の基礎、フードビジネスの基礎技術を習得する。								
使用教材	講師作成資料								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席率（20点）			学習態度（減点）		
	基準	各専攻実習時の知識の習得状況について、各職員がチェックし、評価する。	各専攻実習の取り組み及び技術習得状況について、各職員がチェックし、評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 時間数は日誌の提出をもってカウントする。			実習中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～90	各専攻品目の栽培管理等					90			
	●作物、野菜、花、果樹フードビジネスの4班に分かれローテーションで実習								
	●茶は、7月に4時間 茶業支場で実施								
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	S105	農業機械基礎		学科名	全学科	学年	1	学期	前期	
授業の方法	講義、演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月	
科目の概要	草刈り機取り扱いと基礎知識の取得。運搬車の操作方法、ローダの操作方法、トラクターによるロータリー実演の習得									
講師名	農業機械							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	安全衛生教育、小農器具の取扱と操作、トラクター実演の習得									
使用教材	刈り払い機（講習テキスト）									
成績評価	方法	知識（70点）			学習態度（20点）			出席率（10点）		
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。			受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	刈り払い機に関する知識（学科）						1時間			
2	刈り払い機を使用する作業に関する知識（学科）						1時間			
3	刈り払い機の点検及び整備に関する知識（学科）						1時間			
4	振動障害及びその予防に関する知識（学科）						1時間			
5	関係法令（学科）						1時間			
6	草刈り機の作業（実技）						1時間			
7	ロータリー、ローダの構造と点検整備・運転操作（実技）						1時間			
8	〃						1時間			
9	〃						1時間			
10	トラクターの運転操作・運搬車、動力噴霧器の取扱（実技）						1時間			
11	〃						1時間			
12	〃						1時間			
13	草刈り機刃の取り付け作業とメンテナンス（実技）						1時間			
14	圃場での草刈り演習（実技）						1時間			
15	〃						1時間			
授業時間外に必要な学修	なし									
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	S106	大型特殊機械演習		学科名	全学科	学年	1	学期	全期	
授業の方法	講義、演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月	
科目の概要	道路交通法に関する講義、トラクターの操作実演、宮崎県運転免許試験場より出張試験。									
講師名	農業機械						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	道路交通法に関するトラクターの運転技術を習得。									
使用教材	なし									
成績評価	方法	知識 (70点)			学習態度 (20点)			出席率 (10点)		
	基準	各項目ごとに実技試験にて理解度を評価する。試験に合格			受講態度をA~Cの3段階で評価。 A: 興味関心を持って積極的に受講している(20点) B: 周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C: 居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	トラクターの操作方法及び運転実習					1時間				
2	"					1時間				
3	"					1時間				
4	免許試験コースの説明、技能コースの説明及び運転実技					1時間				
5	"					1時間				
6	"					1時間				
7	免許試験コースの運転練習及び評価					1時間				
8	"					1時間				
9	"					1時間				
10	"					1時間				
11	"					1時間				
12	"					1時間				
13	"					1時間				
14	"					1時間				
15	"					1時間				
授業時間外に必要な学修	なし									
再試験及び補習対象の実施基準	なし									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	S107	農業経営		学科名	農学科・畜産学科	学年	1年	学期	後期	
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	10月～2月	
科目の概要	農業経営や農業簿記の基礎、将来の農業経営設計作成方法を学ぶ。									
講師名	総合農業試験場専門技術センター担当 農業大学校指導職員						実務経験のある教員等 による授業科目			
到達目標	農業経営に関する知識及び農業簿記の基礎知識を身につけ、将来のライフプラン及び経営シミュレーションを作成する。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験及び作成した資料により、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	農業経営について①						1	農業大学校指導職員		
2	農業経営、農業簿記の基礎						1			
3	農業経営、農業簿記の基礎用語						1			
4	試験①						1			
5	農業経営の仕組み（個人経営の特徴）						2	総合農業試験場 専門技術センター		
6	ライフプラン、経営シミュレーションについて									
7	経営シミュレーションの作成						2			
8										
9	本県JAグループの組織概要、業務内容、取り組み						2	JA宮崎中央会		
10										
11	農業経営について②						1	農業大学校指導職員		
12	農業経営について③						1			
13	農業経営について④						1			
14	農業経営について⑤						1			
15	農業経営について⑥、試験②						1			
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T108	農業機械		学科名	全学科	学年	1	学期	後期
授業の方法	講義、演習	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	1月
科目の概要	農業機械（農業機械全般に関するテスト、ノギスの使用方法、工具の取扱、トラクターの整備、プラウの着脱）農業機械に関する安全研修。								
講師名	農業機械							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	1年間の農業機械に関する知識が備わっているか、安全に操作出来ているか。								
使用教材	農業機械（教本）								
成績評価	方法	知識（70点）			学習態度（20点）		出席率（10点）		
	基準	各項目ごとにペーパーと実技試験にて理解度を評価する。			受講態度をA～Cの3段階で評価。 A：興味関心を持って積極的に受講している(20点) B：周囲に迷惑をかけることなく受講している(10点) C：居眠り、スマホ操作等により講義に集中していない(0点)		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	工具の取扱い(講義・実習)					1時間			
2	トラクターの構造・点検(講義・実習)					1時間			
3	トラクターの整備（実習）					1時間			
4	トラクターの構造・点検・整備（学科試験）					1時間			
5	工具の取扱い(実技試験)					1時間			
6	〃					1時間			
7	トラクターへのプラウの着脱・調整（実習）					1時間			
8	〃					1時間			
9	〃					1時間			
10	〃					1時間			
11	プラウの着脱・調整（実技試験）					1時間			
12	〃					1時間			
13	トラクターの安全走行（斜面走行）（演習）					1時間			
14	〃					1時間			
15	農作業安全の基本（DVD視聴、農機具メンテナンス）					1時間			
授業時間外に必要な学修	なし								
再試験及び補習対象の実施基準	レポート提出								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T109 F104	会社経営 (フード必修・他選択)	学科名	全学科 フードビジネス	学年	1年	学期	後期		
授業の方法	講義	区分	選択必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月	
科目の概要	農大の学生出資会社を教材に、会社経営計画や販売計画などを学ぶ。									
講師名	農学科 フードビジネス専攻 今東香 畜産学科 フードビジネス専攻 眞茅喜成 外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	○会社経営に関する基礎知識を身につける。 ○模擬会社の運営及び経理について理解する。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識 (90点)			出席点 (10点)			学習態度 (減点)		
	基準	学生出資会社の運営に関する意見交換会やレポート提出により評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	本校における会社経営 (学生出資会社について) 学生出資会社に関する各組織ごとの運営方法、今年度の経営目標					1				
2	【1, 2年合同】会社経営について 農大祭に向けた商品ディスプレイの手法、POP作成におけるポイントについて① 食品開発センター企画デザイン部					1				
3	【1, 2年合同】会社経営について 農大祭に向けた商品ディスプレイの手法、POP作成におけるポイントについて② 食品開発センター企画デザイン部					1				
4	【1年のみ】ビジネスマナー①② (販売の心得、演習)					1				
5	【1, 2年合同】11月農大祭の準備、運営方法について					1				
6	外部講師 「パッケージデザインについて」 ストロールデザイン					1				
7	外部講師 「会社経営における経営者の心得」 デーリーマーム					1				
8	外部講師 「会社経営における商品開発」 利久庵					1				
9	【1, 2年合同】 学生出資会社の新役員体制づくり①					1				
10	学生出資会社の新役員体制づくり②					1				
11	【1, 2年合同】 学生出資会社の定時株主総会について					1				
12	【1, 2年合同、全学生対象】 令和5年度 定時株主総会					2				
13										
14	新活動体制による活動方針について					1				
15	まとめ レポート					1				
授業時間外に必要な学修	専攻ごとに販売実績について情報収集を行い、売上向上に向けて研究する。									
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T110	食品衛生／食品表示 (フード以外)	学科名	農学科・畜産学科 (フード以外)	学年	1年	学期	前・後期		
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	7～11月	
科目の概要	食品衛生や食品表示に関する知識や技術を身につけ、農業大学校生産物・加工品を題材に、表示ルール「食品表示基準」を遵守した表示が出来るようになる。									
講師名	外部講師：一般社団法人食品表示検定協会 農業大学校 農学科フードビジネス専攻 今東 香						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	食品衛生に関する基礎知識及び食品表示法等に準じた食品表示に関する基礎知識を理解することを到達目標とする。									
使用教材	食品表示検定初級テキスト、食品衛生責任者ハンドブック、食品安全検定初級テキスト									
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）		
	基準	食品衛生責任者養成講座の修了有無、評価テストにより評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	授業の進め方					1				
2-3	食品衛生責任者養成講座（eラーニング）①					2				
4-5	食品衛生責任者養成講座（eラーニング）②					2				
6-7	食品衛生責任者養成講座（eラーニング）③					2				
8-9	食品表示検定初級対策講座					2				
10-11	食品表示検定初級対策講座					2				
12-13	食品表示検定初級対策講座					2				
14-15	食品表示検定初級対策（過去問演習）及び評価テスト					2				
授業時間外に必要な学修	<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生責任者養成講座（eラーニング）の専攻特別実習等による視聴（7月中は視聴可能） ・食品表示検定初級（11月受験）の受験及びその対策。 食品表示検定（オンデマンド）は、9月末～11月末（試験日まで）に視聴可能。									
再試験及び補習対象の実施基準										

令和5年度 授業計画書[シラバス]

科目名	T111	ドローン操作演習		学科名	全学科	学年	1年	学期	特別
授業の方法	講義・演習	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開講時期	4月～8月
科目の概要	農薬散布用ドローンの散布資格を取得を目的としています。ドローンの基礎知識や法令を学びながら、操作の演習も行い資格取得をします。実散布研修は、地元の業者に協力をお願いし本格的な散布研修を行います。								
講師名	農業大学校職員（ドローンインストラクター）					実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	農業用ドローンの散布資格を取得することを目的とします。 ドローン検定3級の資格も同時に資格取得を目指します。								
使用教材	DJI AGRS 教習所学科テキスト（UTC農業ドローン協議会指定） ドローン検定の教科書（3級）								
成績評価	方法	知識（90点）	出席率（10点）		学習態度（減点）				
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。 （実散布研修も試験を行います。試験に合格しない場合は、資格を取得することができません）	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上1.0 ・90%以上0.9 ・80%以上0.8 ・70%以上0.7 ・70%未満 0	20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、授業中のスマホ操作、他の学生への迷惑行為等も減点対象とする。 資格試験のため、公欠でも別途講義を受ける必要があります。					
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内容				時間	備考			
1	ドローンの基礎知識（1）				1	4月18日	2限目		
2	ドローンの基礎知識（2）				1	4月25日	2限目		
3	航空法				1	5月9日	2限目		
4	散布飛行の知識				1	5月16日	2限目		
5	散布飛行の練習（トイドローンを使った操作演習）				1	5月30日	2限目		
6	農薬の知識				1	6月6日	2限目		
7	作物保護の知識				1	6月13日	2限目		
8	試験に向けた復習 テスト				1	6月27日	2限目		
9	ドローンの自動航行について（1）				1	7月4日	2限目		
10	ドローンの自動航行について（2）				1	7月11日	2限目		
11	ドローンの自動航行に関するテスト				1	7月18日	2限目		
12	ドローンの教習に向けて				1	7月25日	2限目		
13~30 (3日間)	農薬散布用ドローン 手動航行				6	夏期休業中			
	手動航行 散布試験				6				
	自動航行 自動航行による散布について				6				
授業時間外に必要な学習	農薬散布用ドローン資格取得のため、公欠である場合は補講を行う必要があります。講義を受講していないと筆記テストを受験することができません。 基礎知識の定着のため、ドローン検定3級の資格を取得することを推奨します。別途案内があります。								
再試験及び補修対象の実施基準	原則として実施はしないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。 ドローンの研修については、気象条件により、日程が変更する可能性があります。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A101	専攻実習 I (作物)	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	・作物専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学修に取り組む。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・作物専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定し、プロジェクト学修を実践する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)		学習態度 (減点)			
	基準	作物専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する。	作物専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 時間数は日誌の提出をもってカウントする。		実習中の態度、提出物により20点を上限として除する。			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
通年	作物専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学修品目の選定と調査、生産技術の習得					270			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A101	専攻実習 I (野菜)	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	・野菜専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学修に取り組む。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・野菜専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定し、プロジェクト学修を実践する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)		学習態度 (減点)			
	基準	野菜専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する。	プロジェクトに取り組んでいる品目の温度管理、かん水管理、施肥管理など栽培管理を理解し実践しているかを評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
通年	野菜専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の選定と生産技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査					270			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A101	専攻実習 I 農 (花)	学科名	農学科	学年	1 年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	・花専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学習に取り組む。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・花専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)		学習態度 (▲20点)			
	基準	花専攻で栽培する品目の生育・開花特性、鮮度保持技術、開花調節技術を理解しているかを細かくチェックし評定する。	プロジェクトに取り組んでいる品目の温度管理、かん水管理、施肥管理など栽培管理を理解し実践しているかを評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		・実習日誌の提出 提出している 0点 提出していない 20点 時々提出 10点 ・日誌の内容 正確に記述 0点 内容に乏しい 10点			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
通年	花専攻で栽培する品目の栽培技術、鮮度保持技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の選定と生産技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査					270			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A101	専攻実習 I (果樹)	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	・果樹専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学習に取り組む。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・果樹専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)		学習態度 (減点)			
	基準	果樹専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する。	果樹専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
通年	果樹専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の選定と生産技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査					270			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A101	専攻実習 I (茶)	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	・茶専攻において栽培する品目の栽培技術の習得、各自のプロジェクト学習に取り組む。								
講師名	総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・茶専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、各自のプロジェクト品目を選定する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)			学習態度 (減点)		
	基準	茶専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する。	茶専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
通年	茶専攻で栽培する品目の栽培技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の選定と生産技術の習得 各自のプロジェクト学習品目の調査					270			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A102	スマート農業基礎(農)	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期		
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月～12月	
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業の現状を認識する。 ・現地での実践的な取組を学ぶとともに、経営的な視点から技術の仕組みを学ぶ。 									
講師名	宮崎大学講師、農業法人、民間企業、茶業支場職員、農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・民間企業や農業法人との連携により、スマート農機を活用した栽培技術を習得する。									
使用教材	・講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験（レポート）にて理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	スマート農業の現状と今後の展開 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT技術の進化と生活・産業面での普及 ・AI・ロボット技術の進化によるスマート農業の今後の展開 					3	宮崎大学農学部 講師			
2										
3										
4	スマート農業の実践③産業用ドローンの現状、活用事例 ドローンによるリモートセンシング事例					2	農業大学校指導職員			
5										
6	スマート農業の実践②ロボット農業機械について ・茶収穫 ロボット摘採機の概要と実演					2	総合農業試験場 茶業支場 職員			
7										
8	スマート農業の実践④農業用施設の環境制御技術について ・施設園芸ハウスの複合環境制御法とその効果					2	民間企業			
9										
10	スマート農業の実践①農作業のスマート化 ・フィールドマン（栽培管理システム）・フィールドサーバーを活用した農業経営管理技術 ・ロボットトラクター等大型農業機械の一貫経営技術					2	農業法人			
11										
12	スマート農業の実践⑤ロボット等高性能農業機械について <ul style="list-style-type: none"> ・ロボット等高性能農業機械の開発状況と活用事例、今後の展開 ・ロボット等高性能農業機械の実演、操作演習 					3	機械メーカー			
13										
14										
15	試験（レポート）					1	農業大学校 指導職員			
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A103s	作物の専攻特別実習 I		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	2	時間数	60	開講時期	7月～3月
科目の概要	・作物専攻において栽培する品目の栽培技術と出荷調整技術について学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・作物専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、出荷調整技術を習得する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席率（20点）		学習態度（減点）			
	基準	作物専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する。	作物専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 時間数は日誌の提出をもってカウントする。		実習中の態度、提出物により20点を上限として除する。			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
通年	作物専攻で栽培する品目の生産技術の習得 出荷調整技術の習得					60			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A103y	施設野菜の 専攻特別実習 I	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	7月～3月
科目の概要	・野菜専攻において栽培する品目の栽培技術と出荷調整について学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・野菜専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、実践的な管理技術及び出荷調整技術を習得する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席率（20点）		学習態度（減点）			
	基準	野菜専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する。	プロジェクトに取り組んでいる品目の温度管理、かん水管理、施肥管理など栽培管理を理解し実践しているかを評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
通年	野菜専攻で栽培する品目の生産技術の習得 各品目に応じた栽培技術の習得 出荷調整技術の習得					120			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A103h	花きの専攻特別実習 I		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	8月～3月
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> 花専攻において栽培する品目の栽培技術と鮮度保持技術及び出荷調整について学ぶ。 フラワー装飾士3級の資格取得に必要な知識、技能を学ぶ。 								
講師名	農業大学校指導職員 外部講師						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 花専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、鮮度保持技術及び出荷調整技術を習得する。 フラワー装飾技能検定3級の資格取得を目指す。 								
使用教材	講師準備資料、熱帯植物図鑑（インドア・グリーン協会）								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席率（20点）		学習態度（▲20点）			
	基準	花専攻で栽培する品目の生育・開花特性、鮮度保持技術、開花調節技術を理解しているかを細かくチェックし評定する。	プロジェクトに取り組んでいる品目の温度管理、かん水管理、施肥管理など栽培管理を理解し実践しているかを評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		<ul style="list-style-type: none"> 実習日誌の提出 提出している 0点 提出していない 20点 時々提出 10点 日誌の内容 正確に記述 0点 内容に乏しい 10点 			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
通年	花専攻で栽培する品目の生産技術の習得 開花調節技術の習得 出荷調整技術の習得					120			
14	フラワー装飾士3級、グリーンマスター試験内容説明						農業大学校指導職員		
	フラワー装飾士3級 実技演習						外部講師		
	試験対策					農業大学校指導職員			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A103k	果樹の専攻特別実習 I		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	4	時間数	120	開講時期	7月～3月
科目の概要	・果樹専攻において栽培する品目の栽培技術や出荷調整について学ぶ。								
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・果樹専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、出荷調整技術を習得する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)		学習態度 (減点)			
	基準	果樹専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する。	果樹専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
通年	果樹専攻で栽培する品目の生産技術の習得 各品目に応じた栽培技術の習得 出荷調整技術の習得						120		
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A103c	茶の専攻特別実習 I	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	2	時間数	60	開講時期	7月～3月
科目の概要	・茶専攻において栽培する品目の栽培技術や出荷調整について学ぶ。								
講師名	総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・茶専攻において栽培する品目の栽培技術を習得するとともに、出荷調整技術を習得する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)		学習態度 (減点)			
	基準	茶専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について、理解度を評価する評定する。	茶専攻で栽培する品目の生育や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により 20点を上限として除する。			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
通年	茶専攻で栽培する品目の生産技術の習得 各品目に応じた栽培技術の習得 出荷調整技術の習得					60			
授業時間外に必要な学修	実習日誌の提出								
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A104	農業概論	学科名	農学科	学年	1年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・各品目の生理生態と栽培管理技術について学ぶ。 ・6次化及び食品加工について学ぶ。 								
講師名	農業大学校農学科指導職員 総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・品目ごとの生理生態や一般的な栽培管理技術を習得する。 ・日本農業技術検定資格3級（既取得は2級）取得を目指す。 								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・作物栽培の基礎、野菜栽培の基礎、果樹栽培の基礎、草花栽培の基礎（農文協） ・講師準備資料 								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。 農業技術検定資格取得			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	普通作物栽培 試験					2	農業大学校指導職員		
2									
3	露地野菜栽培 試験					2	農業大学校指導職員		
4									
5	花き栽培 試験					2	農業大学校指導職員		
6									
7	果樹栽培 試験					2	農業大学校指導職員		
8									
9	フードビジネス関連 試験					2	農業大学校指導職員		
10									
11	施設野菜栽培 試験					3	農業大学校指導職員		
12									
13									
14	茶栽培 試験					2	茶業支場職員		
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A105	土壌肥料基礎		学科名	農学科	学年	1年	学期	前期
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～9月
科目の概要	・農業生産の基本となる土壌・肥料、環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業について学ぶ								
講師名	民間企業（環境土壌クリニック（株）リクリア等） 農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	土壌や肥料、農業気象の基礎知識を習得し、プロジェクト学習に資する。 環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業について習得する。 土壌医検定3級合格の6割の理解力を旨とする。								
使用教材	・講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）		学習態度（減点）		
	基準	レポートにより理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	土壌の基礎・土壌医検定について					1	農業大学校職員		
2	微生物を活用した循環型農業①					2	民間企業		
3									
4	微生物を活用した循環型農業②（土壌病害抑制）					2	民間企業		
5									
6	土壌の基礎、土の組成、微生物のはたらき②					2	民間企業		
7									
8	土壌の基礎、土の組成、微生物のはたらき③					2	民間企業		
9									
10	作物と土、肥料、土の生成、土壌の酸性と中和、水と空気、養分を保持する働き、土壌分析、施肥設計					2	民間企業		
11									
12	土壌医検定について②（試験対策）					1	農業大学校職員		
13	土壌断面、診断、演習					3	民間企業		
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A106s	作物の栽培管理		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	講義	区分	必修(作物専攻)	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水稲、麦類、豆類、露地野菜を対象に、これらを取り巻く情勢、特性及び栽培技術の理論等を学修する。 ・ 特に水稲では、栽培管理の前半に重要となる育苗技術や水管理を中心に学修する。 								
講師名	農業大学校指導職員							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	・ 作物及び野菜の分類と各品目の特性について理解し、プロジェクト学修への意欲を高める。								
使用教材	作物栽培の基礎 作物学の基礎 I 野菜園芸学の基礎 講師準備資料								
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			学習態度(減点)	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	宮崎県の作物生産の現状						1	農業大学校指導職員	
2	水稲の栽培の基本(施肥、生育診断ほか)						1		
3	水稲栽培における水管理(生育時期ごとの水管理)						1		
4	水稲の育苗(育苗前半の管理)						1		
5	水稲の育苗(育苗後半の管理)						1		
6	豆類栽培の基礎(大豆・落花生等の特性)						1		
7	麦類を取り巻く状況(麦類の種類、国内の生産状況と課題ほか)						1		
8	麦類の栽培方法						1		
9	その他の穀物の栽培管理						1		
10	その他の穀物の栽培管理						1		
11	露地野菜の栽培管理						1		
12	露地野菜の栽培管理						1		
13	露地野菜の栽培管理						1		
14	露地野菜の栽培管理						1		
15	試験						1		
授業時間外に必要な学修	講義内容を深めるための学修及び講義内容以外の関連事項の学修								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A106y	施設野菜の栽培管理	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期		
授業の方法	講義	区分	必修(野菜専攻)	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月	
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の分類、野菜の特性と栽培・利用について専門的に学習する。 ・野菜の各品目の生理生態特性・栽培管理について専門的に学習する。 									
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・県内で栽培されている施設果菜類の栽培に関する知識を習得し、専攻実習で実践できるようにする。									
使用教材	図解でよくわかる農業の基本 講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	14時間の講義終了後、100点満点の評価試験を実施、得点の90%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	スイカの生理生態と栽培管理					1	農業大学校指導職員			
2	スイカの生理生態と栽培管理					1				
3	トマトの生理生態と栽培管理					1				
4	トマトの生理生態と栽培管理					1				
5	ナスの生理生態と栽培管理					1				
6	ナスの生理生態と栽培管理					1				
7	キュウリの生理生態と栽培管理					1				
8	キュウリの生理生態と栽培管理					1				
9	ピーマンの生理生態と栽培管理					1				
10	ピーマンの生理生態と栽培管理					1				
11	イチゴの生理生態と栽培管理					1				
12	イチゴの生理生態と栽培管理					1				
13	メロンの生理生態と栽培管理					1				
14	メロンの生理生態と栽培管理					1				
15	試験					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A106h	花きの栽培管理	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期		
授業の方法	講義	区分	必修(花専攻)	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月	
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・花きの分類、花きの特性と栽培・利用について専門的に学習する。 ・花きの各品目の開花特性・栽培管理について専門的に学習する。 									
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・花きの分類と開花調節、鮮度保持技術について理解し、プロジェクト学習への意欲を高める。									
使用教材	草花栽培の基礎 講師準備資料(花き栽培指針)									
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			学習態度(▲20点)		
	基準	14時間の講義終了後、100点満点の評価試験を実施、得点の90%を評価点とする。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 			各授業において受講態度をA・B・Cの3段階で評価する。 A: 問題のない受講態度 0点 B: 注意を受けたが改善 5点 C: 改善できていない、授業を妨害 20点		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	宮崎県の花き生産の現状及び人間生活と花と緑					1				
2	花きの成長・開花と環境(開花調節など)					1				
3	花きの品質と品質保持(鮮度保持技術)					1				
4	キクの栽培管理					1				
5	スイートピーの栽培管理					1				
6	トルコギキョウの栽培管理					1				
7	ダリアの栽培管理					1				
8	ユリ類の栽培管理					1				
9	デルフィニウムの栽培管理					1				
10	バラの栽培管理					1				
11	ラナンキュラスの栽培管理					1				
12	ホオズキ・アネモネの栽培管理					1				
13	ポインセチア・シクラメンの栽培管理					1				
14	洋ラン類の栽培管理					1				
15	試験					1				
授業時間外に必要な学修	特になし。									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試験はしない									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	A106k	果樹の栽培管理	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	講義	区分	必修 (果樹専攻)	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 果樹の分類、果樹の特性と栽培・利用について専門的に学習する。 ・ 果樹の各品目の特性・栽培管理について専門的に学習する。 								
講師名	農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・ 果樹の分類と各品目の特性について理解し、プロジェクト学習への意欲を高める。								
使用教材	果樹栽培の基礎 講師準備資料 (果樹栽培指針)								
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)		学習態度 (減点)		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0 		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	宮崎県の果樹生産の現状					2	農業大学校指導職員		
2	果樹の成長・環境など								
3	果樹の病害虫について					2			
4	マンゴーの栽培管理								
5	マンゴーの栽培管理					2			
6	ライチの栽培管理								
7	きんかんの栽培管理					2			
8	きんかんの栽培管理								
9	みかんの栽培管理					2			
10	みかんの栽培管理								
11	日向夏の栽培管理					2			
12	日向夏の栽培管理								
13	ぶどうの栽培管理					2			
14	ぶどうの栽培管理								
15	試験					1			
授業時間外に必要な学修	特になし。								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

	A106c	茶の栽培管理		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	講義	区分	必修(茶専攻)	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月	
科目の概要	・茶樹の生理生態と基本的な栽培技術について学ぶ。									
講師名	総合農業試験場茶業支場職員							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・茶の栽培管理の体験や生育・収量調査及び病害虫の発生調査等を通して、茶樹の生理生態と基本的な栽培技術を理解させる。									
使用教材	図解 茶生産の最新技術 製造編 講師準備資料									
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			学習態度(減点)		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)										
回	内 容						時間	備 考		
1	茶の生育と茶園管理スケジュール						1	茶業支場支場長		
2	茶の育苗・定植						1	茶業支場育種科		
3	茶の幼木管理						1	茶業支場育種科		
4	茶の摘採(被覆)						1	茶業支場栽培加工科		
5	茶の収量・品質						1	茶業支場栽培加工科		
6	茶の剪枝方法						1	茶業支場栽培加工科		
7	茶の病害虫①						1	茶業支場栽培加工科		
8	茶の病害虫②						1	茶業支場栽培加工科		
9	茶の病害虫③						1	茶業支場栽培加工科		
10	茶の病害虫防除①						1	茶業支場栽培加工科		
11	茶の病害虫防除②						1	茶業支場栽培加工科		
12	茶の施肥方法						1	茶業支場栽培加工科		
13	茶の有機栽培他						1	茶業支場栽培加工科		
14	茶の防霜対策						1	茶業支場栽培加工科		
15	試験						1	茶業支場支場長		
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則実施しない									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B107	農業簿記等資格取得対策 I (農業簿記)	学科名	農学科	学年	1	学期	全期		
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4～11月	
科目の概要	・農業簿記の意義、貸借対照表・損益計算書の意味と構成、帳簿と仕訳、減価償却と計算法、試算表と精算表、決算までの農業簿記の一連の流れを学ぶ。									
講師名	・農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・農業簿記の基礎を理解する。 ・農業簿記検定3級取得レベルを目指す。									
使用教材	・農業簿記検定教科書3級 (大原出版) ・農業簿記検定問題集3級 (大原出版)									
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)			受講態度 (減点)		
	基準	・資格取得検定を受検し、資格取得を目指す。 ・検定結果から理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容				時間			備 考		
1	簿記の意義、記帳から決算までの流れ				1			農業大学校指導職員		
2, 3	貸借対照表及び損益計算書の意味と構成取引と勘定、帳簿				2					
4, 5	仕訳				2					
6	資産、負債、資本				1					
7, 8	収益と費用 決算書作成				2					
9, 10	農業簿記の特徴と決算書の見方、農業における収益と費用、建物・農機具の減価償却の計算法				2					
11, 12	試験対策 ①				1					
13	試験対策 ②				2					
14, 15	試験対策 ③				1					
授業時間外に必要な学修	講義の予習、復習 講師から出される課題 検定日 7月と11月									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B107	農業簿記等資格取得対策 I (危険物、毒劇物)	学科名	農学科	学期	全期
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	開講時期 4月～11月
科目の概要	・学生が受験可能な、危険物取扱者や毒物劇物取扱責任者の資格を取得するために必要な知識を学ぶ					
講師名	農業大学校農学科指導職員				実務経験のある教員 等による授業科目	
到達目標	・危険物取扱者（乙4類）、毒物劇物取扱責任者資格の基礎知識の習得 ・上記資格取得を目指す。					
使用教材	・講師準備資料					
成績評価	方法	知識（90点）			学習態度（減点）	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得検定を受検し、資格取得を目指す。 ・検定結果から理解度を評価する。 			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）						
回	内 容			時間	備 考	
1	危険物取扱者、毒物劇物取扱責任者資格概要説明			1	農業大学校指導職員	
2, 3	危険物取扱者毒物劇物取扱責任者 講義①			2		
4, 5	危険物取扱者毒物劇物取扱責任者 講義②			2		
6	危険物取扱者毒物劇物取扱責任者 講義③			1		
7, 8	危険物取扱者毒物劇物取扱責任者 講義④			2		
9, 10	危険物取扱者毒物劇物取扱責任者 講義⑤			2		
11, 12	危険物取扱者毒物劇物取扱責任者 講義⑥			2		
13	危険物取扱者毒物劇物取扱責任者 講義⑦			1		
14, 15	試験対策			2		
授業時間外に必要な学修	特になし					
再試験及び補習対象の実施基準	実施しない					

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B108	先進農業事例研究	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～2月
科目の概要	先進的な農業者、企業的農業者の営農や栽培管理に対する取組について学ぶ。								
講師名	県内先進的農業者、農業法人等						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	先進的な農業者や農業法人における栽培技術や経営概況を理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書（80点）			出席率（20点）			学習態度（減点）	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> ・提出 提出あり：50点 提出なし：0点 ・内容 A（良い）30点 B（普通）15点 C（悪い）5点 			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 			研修中の態度により20点を上限として除する。	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	校外学習					3	農業大学校指導職員		
2	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組①								
3									
4	校外学習					3	農業大学校指導職員		
5	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組②								
6									
7	校外学習					3	農業大学校指導職員		
8	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組③								
9									
10	校外学習 県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組④					6	農業大学校指導職員		
11									
12									
13									
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B108	先進農業事例研究 (作物)	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月
科目の概要	先進的な農業者、企業的農業者の営農や栽培管理に対する取組について学ぶ。								
講師名	県内先進的農業者、農業法人等						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	先進的な農業者や農業法人における栽培技術や経営概況を理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書 (80点)			出席率 (20点)			学習態度 (減点)	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> ・提出 提出あり : 50点 提出なし : 0点 ・内容 A (良い) 30点 B (普通) 15点 C (悪い) 5点 			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 			研修中の態度により20点を上限として除する。	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	先進農業事例研究実施における心構えと注意事項					1	講義		
2	先進農業事例研究実施における心構えと注意事項					1	講義		
3	先進農業事例研究実施における心構えと注意事項					1	講義		
4	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					1	視察研修		
5	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					1	視察研修		
6	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					1	視察研修		
7	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					1	視察研修		
8	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					1	視察研修		
9	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					1	視察研修		
10	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					1	視察研修		
11	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					1	視察研修		
12	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					1	視察研修		
13	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					1	視察研修		
14	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					1	視察研修		
15	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					1	視察研修		
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B108	先進農業事例研究 (野菜)	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	6月～2月
科目の概要	先進的な農家、企業的農家の営農や栽培管理に対する取組について学ぶ。								
講師名	県内先進的農業者、農業法人等						実務経験のある教員 等による授業科目	○	
到達目標	先進的な農業者や農業法人における栽培技術や経営概況を理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書 (80点)			出席率 (20点)			学習態度 (減点)	
	基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出 提出あり : 50点 提出なし : 0点 ・ 内容 A (良い) 30点 B (普通) 15点 C (悪い) 5点 			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0 			講義中の態度、提出物により 20点を上限として除する。	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容						時間	備 考	
1	先進農業事例研究実施における心構えと注意事項						1	講義	
2	先進農業事例研究実施における心構えと注意事項						1	講義	
3	先進農業事例研究実施における心構えと注意事項						1	講義	
4	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ						1	視察研修	
5	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ						1	視察研修	
6	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ						1	視察研修	
7	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ						1	視察研修	
8	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ						1	視察研修	
9	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ						1	視察研修	
10	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ						1	視察研修	
11	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ						1	視察研修	
12	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ						1	視察研修	
13	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ						1	視察研修	
14	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ						1	視察研修	
15	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ						1	視察研修	
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B108	先進農業事例研究 (花き)	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月
科目の概要	先進的な農家、企業的農家の営農や栽培管理に対する取組について学ぶ。								
講師名	県内先進的農業者、農業法人等						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	先進的な農業者や農業法人における栽培技術や経営概況を理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書 (80点)			出席率 (20点)		学習態度 (▲20点)		
	基準	<ul style="list-style-type: none"> ・提出 提出あり：50点 提出なし：0点 ・内容 A (良い) 30点 B (普通) 15点 C (悪い) 5点 			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 		研修中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	先進農業事例研究実施における心構えと注意事項					3	講義		
2	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					6	視察研修		
3	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					6	視察研修		
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B108	先進農業事例研究 (果樹)	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月
科目の概要	先進的な農家、企業的農家の営農や栽培管理に対する取組について学ぶ。								
講師名	県内先進的農業者、農業法人等						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	先進的な農業者や農業法人における栽培技術や経営概況を理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書 (80点)			出席率 (20点)		学習態度 (減点)		
	基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出 提出あり : 50点 提出なし : 0点 ・ 内容 A (良い) 30点 B (普通) 15点 C (悪い) 5点 			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0 		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	校外学習 県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組①					6	農業大学校指導職員		
2									
3									
4									
5									
6									
7	校外学習 県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組②					6	農業大学校指導職員		
8									
9									
10									
11									
12									
13	校外学習 県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組③					3	農業大学校指導職員		
14									
15									
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B108	先進農業事例研究 (茶)		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～2月
科目の概要	先進的な農家、企業的農家の営農や栽培管理に対する取組について学ぶ。								
講師名	県内先進的農業者、農業法人等							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	先進的な農業者や農業法人における栽培技術や経営概況を理解する。								
使用教材	各指導者が準備する資料								
成績評価	方法	研修報告書 (80点)			出席率 (20点)		学習態度 (減点)		
	基準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出 提出あり : 50点 提出なし : 0点 ・ 内容 A (良い) 30点 B (普通) 15点 C (悪い) 5点 			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0 		講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	先進農業事例研究実施における心構えと注意事項					3	農業大学校指導職員 (講義)		
2	先進農業事例研究実施における心構えと注意事項								
3	先進農業事例研究実施における心構えと注意事項								
4	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					6	農業大学校指導職員 県内先進的農業者、農業法人等 (校外学習)		
5	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ								
6	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ								
7	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ								
8	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ								
9	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ								
10	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ					6	農業大学校指導職員 県内先進的農業者、農業法人等 (校外学習)		
11	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ								
12	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ								
13	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ								
14	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ								
15	県内先進的農業者、農業法人等の栽培技術や経営への取組を学ぶ								
授業時間外に必要な学修	研修報告書の作成								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情のある場合はレポート作成とする								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B109	茶の加工	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	講義	区分	履修 (茶専攻)	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～1月
科目の概要	茶の基本的な加工技術と審査法について学ぶ。								
講師名	総合農業試験場茶業支場職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	茶の基本的な加工技術と審査法の知識を修得させる。								
使用教材	図解 茶生産の最新技術 製造編 講師準備資料								
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)			学習態度 (減点)	
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	茶の分類、生葉の取り扱いと保管					1	茶業支場栽培加工科		
2	煎茶の製造法①					1	茶業支場栽培加工科		
3	煎茶の製造法②					1	茶業支場栽培加工科		
4	製茶工場設備と衛生管理					1	茶業支場栽培加工科		
5	玉露、てん茶の製造法					1	茶業支場栽培加工科		
6	蒸し製玉緑茶の製造法					1	茶業支場栽培加工科		
7	釜炒り茶の製造法①					1	茶業支場栽培加工科		
8	釜炒り茶の製造法①					1	茶業支場栽培加工科		
9	半発酵茶の製造法					1	茶業支場栽培加工科		
10	茶の仕上げ加工法					1	茶業支場栽培加工科		
11	茶の貯蔵と包装					1	茶業支場栽培加工科		
12	煎茶の審査法					1	茶業支場栽培加工科		
13	釜炒り茶の審査法					1	茶業支場栽培加工科		
14	半発酵茶、紅茶の審査法					1	茶業支場栽培加工科		
15	試験					1	茶業支場栽培加工科		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しない								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B110	栽培環境	学科名	農学科	学年	1年	学期	全期		
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～1月	
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸資材や被覆資材、ハウスの基本仕様、施設内環境の制御技術について学ぶ。 ・鳥獣被害の現状、被害軽減対策の知識を学ぶ。 ・農業気象の基礎知識を学ぶ。 									
講師名	総合農業試験場 専門技術センター担当 鳥獣被害対策支援センター(専門技術センター担当) 総合農業試験場 企画情報室 職員 J A 宮崎経済連 建築設計センター 担当者						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	園芸施設の環境、鳥獣被害対策、農業気象の基礎知識を習得し、プロジェクト学習に資する。									
使用教材	・講師準備資料									
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)			学習態度 (減点)		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	天気のおくみ (農業気象の基礎)					2	総合農業試験場 企画情報室			
2	宮崎の地形と気象災害									
3	試験①					1	農業大学校指導職員			
4	鳥獣害被害対策について					2	鳥獣被害対策支援センター			
5	試験②									
6	施設園芸の現状について					2	総合農業試験場 専門技術センター			
7	被覆資材について、光環境制御について									
8	温度制御について湿度制御について									
9	複合環境制御と省エネルギー対策、農業用廃プラスチックのリサイクルについて					2				
10	試験③					1	農業大学校指導職員			
11	県標準型ハウスの基本仕様と構造					2	J A 宮崎経済連 建築設計センター			
12										
13										
14						2				
15	試験④					1	農業大学校指導職員			
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B111	病虫害基礎		学科名	農学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	11月～2月	
科目の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・病虫害の発生や生態の基本知識を学ぶ。 ・農薬の取扱方法について学ぶ。 									
講師名	総合農業試験場 専門技術センター担当 総合農業試験場 生物環境部担当 農業大学校 指導職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	植物の病気発生のメカニズム、害虫の生態を学ぶとともに農薬の種類、特性、使用法を習得させる。									
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・図解でよくわかる病虫害のきほん（誠文堂新光社） ・図解でよくわかる農薬のきほん（誠文堂新光社） ・農薬概説2022（日本植物防疫協会） ・講師準備資料 									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）		
	基準	試験を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容						時間	備 考		
1	主な植物の病気とその被害例、防除方法 主な殺菌剤の種類と作用、製剤名、使用上の注意						2	総合農業試験場 専門技術センター (病虫害担当)		
2										
3										
4										
5	試験①						1	農業大学校指導職員		
6	主な害虫の種類と生態、その被害例と防除方法 主な殺虫剤の種類と作用、製剤名、使用上の注意①						2	総合農業試験場 生物環境部 副部長		
7										
8										
9	主な害虫の種類と生態、その被害例と防除方法 主な殺虫剤の種類と作用、製剤名、使用上の注意②						2			
10	主な害虫の種類と生態、その被害例と防除方法 主な殺虫剤の種類と作用、製剤名、使用上の注意③						2			
11										
12	試験②						1	農業大学校指導職員		
13	作物保護と農薬、植物防疫 関係法令、農薬の一般知識 農薬のリスクと安全性評価						2	農業大学校指導職員		
14										
15	試験 ③						1	農業大学校指導職員		
授業時間外に必要な学修										
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	B112	GAP演習 I (農)	学科名	農学科	学年	1	学期	全期	
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月～11月
科目の概要	・GAPの内容を理解し、GAP基準書、運営マニュアルの自己点検、実践手法を学ぶ。								
講師名	学識経験者 農業大学校指導職員						実務経験のある教員 等による授業科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・GAP基準書、運営マニュアルの自己点検手法を習得させる。 ・GAP維持・更新審査の内容を理解させる。 								
使用教材	講師準備資料、GAP基準書 等								
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)			学習態度 (減点)	
	基準	専攻毎のGAP基準書、運営マニュアルの自己点検手法、審査内容の理解度を専攻担当者が評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 			講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1	GAP基準書に基づく自己点検① (各専攻毎)					3	農業大学校指導職員		
2									
3									
4	GAP基準書に関する講義及び自己点検①の外部評価					3	学識経験者 農業大学校指導職員		
5									
6									
7	GAP基準書に基づく自己点検② (各専攻毎)					3	農業大学校指導職員		
8									
9									
10	GAP自己点検②の外部評価					3	宮崎大学農学部 講師 農業大学校指導職員		
11									
12									
13	GAP審査受審 (AS I A GAP、ひなたGAP)					3	農業大学校指導職員		
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Z101	専攻実習 I (畜)	学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	9	時間数	270	開講時期	7月～3月
科目の概要	・各専攻別に家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理、加工等の実習を通して生産技術や経営スキルを学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員 ・川南支場職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・畜産の生産技術や経営技術、加工技術を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)		受講態度(減点)			
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等			
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1～20	家畜の飼養管理等					20	7月		
21～50	家畜の飼養管理等					30	8月		
51～70	家畜の飼養管理等					20	10月		
71～100	家畜の飼養管理等					30	11月		
101～130	家畜の飼養管理等					30	12月		
131～160	家畜の飼養管理等					30	1月		
161～220	家畜の飼養管理等					60	2月		
221～270	家畜の飼養管理等					50	3月		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補習は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Z102	専攻特別実習(畜)	学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	5	時間数	150	開講時期	7月～3月
科目の概要	・家畜の飼養管理や搾乳、繁殖・肥育管理などの実習を行う。								
講師名	・農業大学校指導職員						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・家畜の飼養管理や繁殖・肥育管理などの実習を通じて、生産技術や経営のスキルを身につける。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識(40点)	技能・技術(40点)	出席率(20点)		受講態度(減点)			
	基準	実習時の知識の習得状況の講師の採点による。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等			
授業の計画(授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1～15	家畜の飼養管理等					15	7月		
16～38	家畜の飼養管理等					23	8月		
39～53	家畜の飼養管理等					15	9月		
54～68	家畜の飼養管理等					15	10月		
69～83	家畜の飼養管理等					15	11月		
84～98	家畜の飼養管理等					15	12月		
99～113	家畜の飼養管理等					15	1月		
114～128	家畜の飼養管理等					15	2月		
129～150	家畜の飼養管理等					22	3月		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	時間が不足する場合、休業期間中に専攻特別実習を行う。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Z103	畜産概論		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	前期	
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	4月～6月	
科目の概要	・畜産物生産の意義と役割、畜産の経営、畜産物の生産から流通、利用に至るまでの畜産全般について基礎的なことを広く学ぶ。									
講師名	・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・畜産全般について基礎的な知識を習得する。 ・農業技術検定3級程度の知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。									
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・講師作成資料 等									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考			
1	家畜と人間生活（畜産の意味、畜産の歩み） ●〈畜産概論〉我が国畜産の沿革及び特徴					1	担当講師： 農業大学校職員			
2	家畜の主要品種の改良と特徴 ●〈畜産概論〉家畜の主要品種の特徴					1				
3	乳用牛、肉用牛、豚の一生と生産、畜産経営形態の種類と特徴 ●〈畜産概論〉主要畜産物（乳・肉等）の生産に関する要因					1				
4	家畜飼養管理、畜産の環境と防疫、動物福祉（アニマルウェルフェア）、牛トレーサビリティ制度、生産工程管理（HACCP、GAP等） ●〈畜産概論〉家畜の飼養管理とアニマルウェルフェア					1				
5	試験① ●〈畜産概論〉					1				
6	畜産物の利用（乳と乳製品）					1				
7	畜産物の利用（肉と肉製品）					1				
8	畜産物の利用（卵と卵の利用、機能的食品、皮・毛・羽毛、医療用器材）					1				
9	肉用牛繁殖経営の実際（飼養管理、流通）					1				
10	肉用牛肥育経営の実際（飼養管理、流通）					1				
11	酪農経営の実際（飼養管理、流通）					1				
12	養豚経営の実際（飼養管理、流通）					1				
13	養鶏経営の実際（飼養管理、流通）					1				
14	その他の家畜（ヤギ、ヒツジ、ウマ）の実際					1				
15	試験②					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Z104	スマート農業基礎(畜)	学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全期		
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	5月～7月	
科目の概要	スマート農業を導入することで、農業が直面している課題の何を変えることができ、どのような技術を使うことでそれを変えることができるのかを学ぶ。									
講師名	外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	メーカーや農業法人との連携により、スマート農機を活用したプロジェクトとして取り組み、高度なスマート農業技術を習得させる。									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
1	スマート農業の現状と今後の展開					1	担当講師：外部講師			
2	〃					1				
3	〃					1				
4	ICTを活用した農業経営について①					1				
5	〃					1				
6	ICTを活用した農業経営について②					1				
7	〃					1				
8	ICTを活用した農業経営について③					1				
9	〃					1				
10	ICTを活用した農業経営について④					1				
11	〃					1				
12	ICTを活用した農業経営について⑤					1				
13	〃					1				
14	ICTを活用した農業経営について⑥					1				
15	〃					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Z105-1	家畜の栄養と飼料 (その1)	学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全		
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	9月～2月	
科目の概要	・栄養素と消化の仕組みとともに、飼料の種類や特性、栽培管理及び給与方法について学ぶ。									
講師名	・農業大学校職員：中武 誠司(1～8, 12～14, 15)、 杉野文章(16～27)、松田 はな(9～11, 15) ・畜産試験場：(28～30)						実務経験のある教員 等による授業科目			
到達目標	・栄養素と消化の仕組みとともに、飼料の種類や特性、栽培管理及び給与方法を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。									
使用教材	・講師作成資料									
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)			受講態度 (減点)		
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、 他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」(国)の科目名及び内容					時間	備 考			
1	牛の栄養 (栄養素) ●〈家畜の栄養〉家畜における消化及び吸収の仕組み					1	担当講師：農業大学校 職員、中武			
2	牛の栄養 (栄養素) ●〈家畜の栄養〉家畜における消化及び吸収の仕組み					1				
3	牛の栄養 (消化器の構造と機能) ●〈家畜の栄養〉家畜における消化及び吸収の仕組み					1				
4	牛の栄養 (消化器の構造と機能) ●〈家畜の栄養〉家畜における消化及び吸収の仕組み					1				
5	牛の栄養 (飼料の種類と特性) ●〈家畜の栄養〉飼料の種類及び特性					1				
6	牛の栄養 (飼料の種類と特性) ●〈家畜の栄養〉飼料の種類及び特性					1				
7	牛の栄養 (飼料の配合と給与) ●〈家畜の栄養〉飼料の配合及び給与					1				
8	牛の栄養 (飼料の配合と給与) ●〈家畜の栄養〉飼料の配合及び給与					1				
9	豚の栄養 (消化器の構造と機能) ●〈家畜の栄養〉家畜における消化及び吸収の仕組み					1	担当講師：農業大学校職員、 松田			
10	豚の栄養 (飼料の種類と特性) ●〈家畜の栄養〉飼料の種類及び特性					1				
11	豚の栄養 (飼料の種類と特性) ●〈家畜の栄養〉飼料の種類及び特性					1				
12	家畜の栄養状態の把握 ●〈家畜の栄養〉飼料の配合及び給与					1	担当講師：農業大学校 職員、中武			
13	家畜の養分要求量の把握 ●〈家畜の栄養〉飼料の配合及び給与					1				
14	飼料設計診断 ●〈家畜の栄養〉飼料の配合及び給与					1				
15	試験① ●〈家畜の栄養〉					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Z105-2	家畜の栄養と飼料 (その2)	学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全	
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	9月～2月
科目の概要	・栄養素と消化の仕組みとともに、飼料の種類や特性、栽培管理及び給与方法について学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員：中武 誠司(1～8, 12～14, 15)、 杉野文章(16～27)、松田 はな(9～11, 15) ・畜産試験場：(28～30)						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・栄養素と消化の仕組みとともに、飼料の種類や特性、栽培管理及び給与方法を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。								
使用教材	・講師作成資料								
成績評価	方法	知識(90点)			出席率(10点)			学習態度(減点)	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
16	飼料作物生産の意義(飼料作物の生産費)					1	担当講師：農業大学校職員、杉野		
17	飼料作物の栽培と品種					1			
18	飼料作物の栽培・収穫に係わる機械化体系					1			
19	飼料作物栽培・収穫の手引き					1			
20	飼料作物の調製(サイレージ・乾草)①					1			
21	飼料作物の調製(サイレージ・乾草)②					1			
22	放牧草地の利用と生産					1			
23	飼料作物の生産費					1			
24	飼料作物の土壌					1			
25	良質堆肥の生産方法					1			
26	雑草・病害虫防除					1			
27	試験②					1			
28	現場での実習(土壌サンプル・堆肥)					1			
29	飼料作物関連新技術、エコフィードの活用					1			
30	試験③					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Z106	家畜の飼養管理	学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全期		
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～10月	
科目の概要	・家畜の飼養管理体系と環境に応じた飼養管理技術を学ぶ。									
講師名	・農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・家畜の飼養管理体系や環境に応じた飼養管理技術の知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。									
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト、日本標準飼料分析表、日本飼養標準（乳牛、肉用牛、豚）、講師作成資料									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考			
1	牛に対する環境の影響 ●〈家畜の飼養管理〉家畜に対する環境の影響					1	担当講師： 農業大学校職員			
2	牛の管理施設の種類と特長 ●〈家畜の飼養管理〉畜舎等畜産施設の種類及び特性					1				
3	一般的な飼養管理方法(肉用牛繁殖) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1				
4	一般的な飼養管理方法(肉用牛繁殖) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1				
5	一般的な飼養管理方法(肉用牛肥育) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1				
6	一般的な飼養管理方法(肉用牛肥育) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1				
7	試験① ●〈家畜の飼養管理〉					1				
8	一般的な飼養管理方法(酪農) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1				
9	一般的な飼養管理方法(酪農) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1				
10	一般的な飼養管理方法(酪農) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1				
11	試験② ●〈家畜の飼養管理〉					1				
12	豚の特性と環境などの影響 ●〈家畜の飼養管理〉家畜に対する環境の影響					1				
13	豚の管理施設の種類と特長 ●〈家畜の飼養管理〉畜舎等畜産施設の種類及び特性					1				
14	一般的な飼養管理方法(豚) ●〈家畜の飼養管理〉一般的飼養管理方法					1				
15	試験③ ●〈家畜の飼養管理〉					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Z107	育種と繁殖 I (その1)	学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全	
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	9月～3月
科目の概要	家畜の遺伝の原理や主要形質の遺伝、家畜の選抜・交配・能力検定の方法、家畜登録制度の内容とともに、繁殖に関連する主なホルモンの作用機序や分泌調節、雌・雄の繁殖生理、妊娠と分娩のしくみを学ぶ。								
講師名	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師 ・農業大学校職員 						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜の育種や繁殖に関する知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。 								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜人工授精講習会テキスト ・講師作成資料 								
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)			学習態度(減点)	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 95%以上 1.0 ・ 90%以上95%未満 0.9 ・ 80%以上90%未満 0.8 ・ 70%以上80%未満 0.7 ・ 70%未満 0 			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等	
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」(国)の科目名及び内容					時間	備 考		
1	家畜の育種 (家畜の遺伝の原理) ● (家畜の育種) 家畜の遺伝の原理					1	担当講師：外部講師		
2	家畜の育種 (家畜の遺伝の原理) ● (家畜の育種) 家畜の遺伝の原理					1			
3	家畜の育種 (家畜の主要形質の遺伝) ● (家畜の育種) 家畜の主要形質の遺伝					1			
4	家畜の育種 (家畜の主要形質の遺伝) ● (家畜の育種) 家畜の主要形質の遺伝					1			
5	家畜の育種 (家畜の選抜、交配および能力検定) (牛・豚) ● (家畜の育種) 家畜の選抜方法及びその特徴、能力検定					1			
6	家畜の育種 (家畜の選抜、交配および能力検定) (牛・豚) ● (家畜の育種) 家畜の選抜方法及びその特徴、能力検定					1			
7	家畜の育種 (家畜登録制度) (牛・豚) 試験① ● (家畜の育種) 家畜の登録制度					1			
8	妊娠と分娩 (受精・発生) ● (種付けの理論) (妊娠と分娩) 雌生殖器官内における精子及び卵子の移動並					1	担当講師： 農業大学校職員		
9	妊娠と分娩 (胎子・胎膜の発育と着床) ● (繁殖生理) 胚、胎児の発育及び妊娠による母胎の変化					1			
10	妊娠と分娩 (妊娠の経過と妊娠診断) ● (繁殖生理) 分娩の経過及び分娩後の繁殖機能					1			
11	妊娠と分娩 (分娩と産褥、繁殖障害) ● (繁殖生理) 繁殖障害の概念及び原因					1			
12	妊娠と分娩 (分娩と産褥、繁殖障害) 試験② ● (繁殖生理) 繁殖障害の概念及び原因					1			
13	人工授精技術 I (家畜人工授精の意義) ● (人工授精) 人工授精技術の発展の歴史、人工授精技術の意義及び得失					1	担当講師： 農業大学校職員		
14	人工授精技術 I (家畜人工授精の意義) 試験③ ● (人工授精)					1			
15	人工授精技術 II (精液の採取と検査) ● (人工授精) 精液の採取、精液及び精子の検査					1	担当講師：外部講師		
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Z107	育種と繁殖Ⅰ（その2）	学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全	
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	2	時間数	30	開講時期	9月～3月
科目の概要	家畜の遺伝の原理や主要形質の遺伝、家畜の選抜・交配・能力検定の方法、家畜登録制度の内容とともに、繁殖に関連する主なホルモンの作用機序や分泌調節、雌・雄の繁殖生理、妊娠と分娩のしくみを学ぶ。								
講師名	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師 ・農業大学校職員 						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜の育種や繁殖に関する知識を習得する。 ・家畜人工授精に関する知識を習得する。 								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・家畜人工授精講習会テキスト ・講師作成資料 								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			学習態度（減点）	
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考		
16	人工授精技術Ⅱ（精液の採取と検査） ●〈人工授精〉精液の採取、精液及び精子の検査					1	担当講師：外部講師		
17	人工授精技術Ⅱ（X精子・Y精子の選別分取処理） ●〈人工授精〉精液及び精子の検査					1			
18	人工授精技術Ⅱ（精液の凍結保存） ●〈人工授精〉保存性の特性及び精液の希釈、精液の液状保存及び凍結保存					1			
19	人工授精技術Ⅱ（精液の凍結保存） 試験④ ●〈人工授精〉保存性の特性及び精液の希釈、精液の液状保存及び凍結保存					1			
20	人工授精技術Ⅲ（凍結精液の保管と取扱い） ●〈人工授精〉人工授精器具等の種類及び特性					1	担当講師： 農業大学校職員		
21	人工授精技術Ⅲ（凍結精液の保管と取扱い） ●〈人工授精〉人工授精器具等の種類及び特性					1			
22	人工授精技術Ⅲ（凍結精液の保管と取扱い） ●〈人工授精〉人工授精器具等の種類及び特性					1			
23	人工授精技術Ⅲ（凍結精液の保管と取扱い） ●〈人工授精〉消毒の原理及び方法					1			
24	人工授精技術Ⅲ（凍結精液の保管と取扱い） ●〈人工授精〉消毒の原理及び方法					1			
25	人工授精技術Ⅲ（凍結精液の保管と取扱い） ●〈人工授精〉消毒の原理及び方法					1			
26	人工授精技術Ⅲ（凍結精液の保管と取扱い） ●〈人工授精〉消毒の原理及び方法					1			
27	人工授精技術Ⅲ（精液の注入） ●〈人工授精〉精液の注入					1			
28	人工授精技術Ⅲ（精液の注入） ●〈人工授精〉精液の注入					1			
29	人工授精技術Ⅲ（精液の注入） ●〈人工授精〉精液の注入					1			
30	人工授精技術Ⅲ（精液の注入） 試験⑤ ●〈人工授精〉精液の注入					1			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y108	人工授精演習		学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	講義	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月	
科目の概要	・家畜人工授精業務に必要な知識と技術を習得するため、家畜の審査方法、生殖器の構造とともに、人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法等について学ぶ。									
講師名	・農業大学校職員 ・外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・家畜人工授精に関する知識を習得する。									
使用教材	・家畜人工授精講習会テキスト ・生殖器 ・講師作成資料 等									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	試験等を実施し、理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容 ●は「家畜人工授精に関する講習」（国）の科目名及び内容					時間	備 考			
1	生殖器解剖 ●〈生殖器解剖〉生殖器の解剖					1	講師担当： 農業大学校指導職員			
2	生殖器解剖 ●〈生殖器解剖〉生殖器の解剖					1				
3	生殖器解剖 ●〈生殖器解剖〉生殖器の解剖					1				
4	生殖器解剖 ●〈生殖器解剖〉生殖器の解剖					1				
5	評価① ●〈生殖器解剖〉生殖器の解剖					1				
6	人工授精 ●〈人工授精〉人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法					1				
7	人工授精 ●〈人工授精〉人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法					1				
8	評価② ●〈人工授精〉人工授精関係帳簿及び証明書の記載方法					1	担当講師： (肉用牛)和牛登録協会宮崎県支部 (豚)畜試川南支場			
9	家畜の体尺測定 ●〈家畜の審査〉家畜の体尺測定					1				
10	家畜の体尺測定 ●〈家畜の審査〉家畜の体尺測定					1				
11	家畜の体尺測定 ●〈家畜の審査〉家畜の体尺測定					1				
12	評価③ ●〈家畜の審査〉家畜の体型審査					1	担当講師： (乳用牛)経済連 (豚)畜試川南支場			
13	家畜の体型審査 ●〈家畜の審査〉家畜の体型審査					1				
14	家畜の体型審査 ●〈家畜の審査〉家畜の体型審査					1				
15	評価④ ●〈家畜の審査〉家畜の体型審査					1				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y109	GAP演習 I (畜)	学科名	畜産学科	学年	1年	学期	全期		
授業の方法	演習	区分	履修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～9月	
科目の概要	GAPの内容を理解し、GAP基準書、運営マニュアルの自己点検、実践手法を学ぶ。									
講師名	農業大学校職員						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・GAP基準書、運営マニュアルの自己点検手法を習得させる。 ・GAP維持・更新審査の内容を理解させる。 									
使用教材	JGAP総合規則、農場用管理点と適合基準、アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理指針、GAP手順書 等									
成績評価	方法	知識 (90点)			出席率 (10点)			受講態度 (減点)		
	基準	専攻毎のGAP基準書、運営マニュアルの自己点検手法、審査内容の理解度を専攻担当者が評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為 等		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	GAP基準書の理解 (各専攻) ①					1	担当講師：農業大学校職員			
2	GAP基準書の理解 (各専攻) ②					1				
3	GAP基準書の理解 (各専攻) ③					1				
4	作業標準書に基づく作業手順の確認 (各専攻) ①					1				
5	作業標準書に基づく作業手順の確認 (各専攻) ②					1				
6	作業標準書に基づく作業手順の確認 (各専攻) ③					1				
7	作業標準書に基づく作業手順の確認 (各専攻) ④					1				
8	作業標準書に基づく作業手順の確認 (各専攻) ⑤					1				
9	リスク評価表に基づくリスク評価及び見直し (各専攻) ①					1				
10	リスク評価表に基づくリスク評価及び見直し (各専攻) ②					1				
11	リスク評価表に基づくリスク評価及び見直し (各専攻) ③					1				
12	リスク評価表に基づくリスク評価及び見直し (各専攻) ④					1				
13	商品トレーステスト、事故発生時の机上演習 (各専攻)					1				
14	作業機器の点検及び記帳 (各専攻) ①					1				
15	作業機器の点検及び記帳 (各専攻) ②					1				
授業時間外に必要な学修	専攻実習 I 及び専攻特別実習 I における農場での実践演習									
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試験は実施しない									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	Y310	削蹄講習		学科名	畜産学科	学年	1～2年	学期	1年次後期
授業の方法	実習	区分	履修	単位数	2	時間数	30 (1年次9)	開講時期	2月
科目の概要	家畜の削蹄の必要性とともに削蹄技術を学ぶ。								
講師名	外部講師							実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・削蹄の技術を習得する。 ・2級認定削蹄資格を取得する。 								
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・牛削蹄入門 ・講師準備資料 								
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席率（20点）		受講態度(減点)			
	基準	講習会試験の採点による。	講師の採点による。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・80%未満 0 		20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	削蹄の基礎について					1	担当講師：宮崎県削蹄師協会・曾我政範氏 1年次		
2	削蹄の基礎について					1			
3	削蹄実習					1			
4	削蹄実習					1			
5	削蹄実習					1			
6	削蹄実習					1			
7	削蹄実習					1			
8	削蹄実習					1			
9	削蹄実習					1			
10									
11									
12									
13									
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して補習は実施しない。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	X111	農業簿記 (その1)	学科名	全学科	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開講時期	4～11月
科目の概要	・農業簿記の意義、貸借対照表・損益計算書の意味と構成、帳簿と仕訳、減価償却と計算法、試算表と精算表、決算までの農業簿記の一連の流れを学ぶ。								
講師名	・農業大学校職員：杉野文章						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	・農業簿記の基礎を理解する。 ・農業簿記検定3級取得レベルを身につける。								
使用教材	・農業簿記検定教科書3級（大原出版） ・農業簿記検定問題集3級（大原出版）								
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）	
	基準	・単元毎にミニテストを実施し理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1	簿記の意義、記帳から決算までの流れ					1	担当講師：農業大学校職員、杉野 ※試験：農業簿記検定受験（7月、11月）		
2	貸借対照表の意味と構成					1			
3	損益計算書の意味と構成					1			
4	取引と勘定、帳簿					1			
5	仕訳①					1			
6	仕訳②					1			
7	仕訳③					1			
8	仕訳④					1			
9	資産、負債、資本					1			
10	収益と費用					1			
11	決算書作成					1			
12	農業簿記の特徴と決算書の見方					1			
13	農業における収益と費用					1			
14	建物・農機具の減価償却の計算法					1			
15	建物・農機具の減価償却の計算法					1			
授業時間外に必要な学修	講義の予習、復習 講師から出される課題								
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	X111	農業簿記 (その2)	学科名	全学科	学年	1年	学期	全期		
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	2	時間数	30	開講時期	4～11月	
科目の概要	・農業簿記の意義、貸借対照表・損益計算書の意味と構成、帳簿と仕訳、減価償却と計算法、試算表と精算表、決算までの農業簿記の一連の流れを学ぶ。									
講師名	・農業大学校職員：杉野文章						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	・農業簿記の基礎を理解する。 ・農業簿記検定3級取得レベルを身につける。									
使用教材	・農業簿記検定教科書3級（大原出版） ・農業簿記検定問題集3級（大原出版）									
成績評価	方法	知識（90点）			出席率（10点）			受講態度（減点）		
	基準	・単元毎にミニテストを実施し理解度を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			20点を上限に総合点数より減点する。 ※私語、居眠り、スマホ操作、他の学生への迷惑行為等		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）										
回	内 容					時間	備 考			
16	農外損益・特別損益、決算書①					1	担当講師：農業大学校職員、杉野 ※試験：農業簿記検定受験（7月、11月）			
17	農外損益・特別損益、決算書②					1				
18	試験①					1				
19	農業簿記試験対策①					1				
20	試験②（農業簿記検定）					1				
21	農業簿記試験対策②					1				
22	農業簿記試験対策③					1				
23	農業簿記試験対策④					1				
24	農業簿記試験対策⑤					1				
25	農業簿記試験対策⑥					1				
26	農業簿記試験対策⑦					1				
27	農業簿記試験対策⑧					1				
28	農業簿記試験対策⑨					1				
29	農業簿記試験対策⑩					1				
30	試験③（農業簿記検定）					1				
授業時間外に必要な学修	講義の予習、復習 講師から出される課題									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として実施しないが、特別な事情がある場合は申し出ること。その後別途通知する。									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	F101	専攻実習 I (フ)	学科名	全学科 フードビジネス	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	7	時間数	210	開講時期	7月～3月
科目の概要	農産物、畜産物の加工に関する基礎知識と技術を学ぶ。また、栽培、加工、販売の6次産業化に取り組み、実践力を身につける。								
講師名	農学科 フードビジネス専攻 今東 香、作物専攻 菊池祐一郎 畜産学科 フードビジネス専攻 眞茅喜成、外部講師			実務経験のある教員等による授業科目					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・農大の農畜産物の栽培・飼養管理から、加工、販売の一連の学習について実践する。 ・農産物、畜産物の加工技術を習得する。 ・食品に関する基礎知識を身につけ、加工から販売までの一連の流れを理解する。 								
使用教材	農場での学習資料 食品製造実習関連資料								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)	学習態度 (減点)				
	基準	資格取得のための知識習得の状況や理解度を評価する。 各種イベント等で習得される知識などを評価する。	専攻で製造・販売する商品の品質管理や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。				
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
回	内 容					時間	備 考		
1～10	加工室、加工器具類の取り扱い説明 食品衛生に関する基礎知識					10			
11～40	農大の農畜産物の一次処理・冷凍保存 (6次産業化に向けた取り組み)					30			
41～80	農大産の作物を使った焼き菓子 (マドレーヌ、パウンドケーキ等) 製造、ジャム類 (イチゴ、マーマレード等) の製造					40			
81～110	原材料の生産・調達に係る実践農場での栽培管理と流通に関する学習					30			
110～160	農大産の牛乳を使ったチーズ、アイスクリームの製造					50			
161～210	農大産の畜産物を使ったハム、ベーコン、ソーセージ製造					50			
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	再試験、補講は行わない。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	F102	専攻特別実習 I (フ)	学科名	全学科 フードビジネス	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	必修	単位数	5	時間数	150	開講時期	7月～3月
科目の概要	フードビジネス専攻における必要な資格取得に関する学習や学生出資会社での販売実習、専攻での特別講義等を行うことにより、実践力を身につける。								
講師名	農学科 畜産学科	フードビジネス専攻 フードビジネス専攻	今東 香 眞茅 喜成					実務経験のある教員等による授業科目	
到達目標	各資格取得のための講習・各種イベント等への参加を行い、各自の技術向上を図る。								
使用教材	資格取得のためのテキスト								
成績評価	方法	知識 (40点)	技能・技術 (40点)	出席率 (20点)	学習態度 (減点)				
	基準	資格取得のための知識習得の状況や理解度を評価する。 各種イベント等で習得される知識などを評価する。	専攻で製造・販売する商品の品質管理や出荷調整について理解し、プロジェクト学習に積極的に取り組んでいるかをチェックし評定する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0	講義中の態度、提出物により20点を上限として除する。				
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)									
月	内 容					時間	備 考		
1～15	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習					15			
16～30	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習					15			
31～45	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習					15			
46～65	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習					20			
66～85	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習					20			
86～105	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習					20			
106～125	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習					20			
126～140	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習					15			
141～150	資格取得のための学修、学生出資会社 販売実習					10			
授業時間外に必要な学修	各自が1年次に取得する資格等を決定し、各自で準備する。資格取得のための学修を実施する。								
再試験及び補習対象の実施基準	時間外実習の時間が不足する場合、休業期間中に時間外実習を行う。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	F103	食品製造(理論)	学科名	全学科 フードビジネス	学年	1年	学期	全期		
授業の方法	講義	区分	必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～11月	
科目の概要	農産物、畜産物の加工方法について学ぶ。食品衛生、食品化学に関する基礎知識を身につける。農業技術検定2級の資格取得に向けて学習する。									
講師名	畜産学科 フードビジネス専攻 眞茅喜成						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	農畜産物に関する基礎知識を身につけ、農業技術検定2級合格を目指す。									
使用教材	農業技術検定2級テキスト									
成績評価	方法	知識 (90点)			出席点 (10点)			学習態度 (減点)		
	基準	講義及び演習の終了後、評価試験を実施する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画(授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	加工室、加工器具類の取り扱い説明, 食品衛生に関する基礎知識 HACCPの考えを導入した本校の加工室の衛生管理について 食品化学に関する実験器具類の説明及び演習					3				
2										
3										
4	食中毒、食品添加物について					2				
5										
6	野菜、果実の栄養、加工特性について 野菜、果実を使った加工品に関する基礎知識 (トマトケチャップ、ジャム類等)					4				
7										
8										
9	穀類の栄養、加工特性について 穀類を使った加工品に関する基礎知識 (パン類、焼き菓子等)					2				
10										
11										
12	畜産物の栄養、加工特性について 畜産物を使った加工品に関する基礎知識 (くん製品) 乳の栄養、加工特性について 乳を使った加工品に関する基礎知識 (アイスクリーム)					3				
13										
14										
15	試験 (農業技術検定テキストから出題)					1				
授業時間外に必要な学修	予習、復習及び試験に向けた学習									
再試験及び補習対象の実施基準	再試験、補講は行わない。									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	T109 F104	会社経営 (フード必修・他選択)	学科名	全学科 フードビジネス	学年	1年	学期	後期		
授業の方法	講義	区分	選択必修	単位数	1	時間数	15	開講時期	9月～2月	
科目の概要	農大の学生出資会社を教材に、会社経営計画や販売計画などを学ぶ。									
講師名	農学科 フードビジネス専攻 今東香 畜産学科 フードビジネス専攻 眞茅喜成 外部講師						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・会社経営に関する基礎知識を身につける。 ・模擬会社の運営及び経理について理解する。 									
使用教材	講師準備資料									
成績評価	方法	知識 (90点)			出席点 (10点)			学習態度 (減点)		
	基準	学生出資会社の運営に関する意見交換会やレポート提出により評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	本校における会社経営 (学生出資会社について) 学生出資会社に関する各組織ごとの運営方法、今年度の経営目標					1				
2	【1, 2年合同】会社経営について 農大祭に向けた商品ディスプレイの手法、POP作成におけるポイントについて① 食品開発センター企画デザイン部					1				
3	【1, 2年合同】会社経営について 農大祭に向けた商品ディスプレイの手法、POP作成におけるポイントについて② 食品開発センター企画デザイン部					1				
4	【1年のみ】ビジネスマナー①② (販売の心得、演習)					1				
5	【1, 2年合同】11月農大祭の準備、運営方法について					1				
6	外部講師 「パッケージデザインについて」 ストロールデザイン					1				
7	外部講師 「会社経営における経営者の心得」 デーリーマーム					1				
8	外部講師 「会社経営における商品開発」 利久庵					1				
9	【1, 2年合同】 学生出資会社の新役員体制づくり①					1				
10	学生出資会社の新役員体制づくり②					1				
11	【1, 2年合同】 学生出資会社の定時株主総会について					1				
12	【1, 2年合同、全学生対象】 令和5年度 定時株主総会					2				
13										
14	新活動体制による活動方針について					1				
15	まとめ レポート					1				
授業時間外に必要な学修	専攻ごとに販売実績について情報収集を行い、売上向上に向けて研究する。									
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	G105	食品衛生／食品表示 (フ)	学科名	フードビジネス	学年	1年	学期	全期		
授業の方法	講義	区分	必履修	単位数	2	時間数	30	開講時期	7～3月	
科目の概要	食品衛生や食品表示に関する知識や技術を身につけ、農業大学校生産物・加工品を題材に、表示ルール「食品表示基準」を遵守した表示が出来るようになる。									
講師名	外部講師：一般社団法人食品表示検定協会 外部講師：食品加工技術アドバイザー 福山明子 農業大学校 農学科フードビジネス専攻 今東 香						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	食品衛生に関する基礎知識及び食品表示法等に準じた食品表示に関する基礎知識を理解することを到達目標とする。									
使用教材	食品衛生責任者ハンドブック、食品表示検定初級テキスト、食品安全検定初級テキスト									
成績評価	方法	知識 (90点)			出席点 (10点)			学習態度 (減点)		
	基準	以下の①～④により評価する。 ① 食品衛生責任者養成講座の修了有無 ② 食品表示検定の点数 ③ 食品安全検定の点数、 ④ 評価テスト			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	授業の進め方					1				
2	食品衛生責任者養成講座 (e-ラーニング) ①					1				
3	食品衛生責任者養成講座 (e-ラーニング) ②					1				
4	食品衛生責任者養成講座 (e-ラーニング) ③					1				
5	食品衛生責任者養成講座 (e-ラーニング) ④					1				
6	食品衛生責任者養成講座 (e-ラーニング) ⑤					1				
7	食品衛生責任者養成講座 (e-ラーニング) ⑥					1				
8-9	食品表示検定初級対策講座 (オンデマンド) ①					2				
10	食品表示検定初級対策講座 (オンデマンド) ②					1				
11-12	食品表示検定初級対策講座 (オンデマンド) ③					2				
13-14	食品表示検定初級対策講座 (オンデマンド) ③					2				
15-16	食品表示検定初級対策 (過去問演習)					2				
17-18	食品表示検定初級対策 (過去問演習)					2				
19	食品表示検定初級対策 (過去問演習)					1				
20	食品表示検定初級対策 (過去問演習)					1				
21-22	食品表示検定初級対策 (過去問演習)					2				
23	食品表示検定初級対策 (過去問演習)					1				
24	食品表示検定初級対策 (過去問演習) 及び評価テスト					1				
25-26	食品安全検定初級対策					2				
27-28	食品安全検定初級対策					2				
29-30	食品安全検定初級対策及び評価テスト					2				
授業時間外に必要な学修	<ul style="list-style-type: none"> ・食品衛生責任者養成講座 (e-ラーニング) の専攻特別実習等による視聴 (7月中は視聴可能) ・食品表示検定初級 (11月受験)、食品安全検定 (3月受験) の受験及びその対策。 食品表示検定 (オンデマンド) は、9月末～11月末 (試験日まで) に視聴可能。									
再試験及び補習対象の実施基準										

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	G106	食品化学 I		学科名	全学科 フードビジネス	学年	1年	学期	後期
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	12月～2月
科目の概要	食品実験に関する基礎知識を身につけ、食品の一般分析方法について学ぶ。								
講師名	南九州大学 健康栄養学部 食品開発科学科 中瀬昌之							実務経験のある教員 等による授業科目	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実験器具の使い方に関する基礎知識を身につける。 ・食品分析に関する実験内容を理解し、レポートにまとめる。 								
使用教材	講師準備資料、実験器具、試薬類								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）	
	基準	講義終了後にレポートを提出し、内容により知識の習得状況を評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容						時間	備 考	
1	実験器具の使い方、レポートの書き方の説明						3		
2	食品の一般分析①-1 水分の定量								
3	食品の一般分析①-2 灰分の定量								
4	食品の一般分析② リンの定量						3		
5									
6									
7	食品の一般分析③ タンパク質の定量（ケルダール法①）						3		
8									
9									
10	食品の一般分析④ タンパク質の定量（ケルダール法②）						3		
11									
12									
13	食品の一般分析⑤ 脂質の定量（ソックスレー法）						3		
14									
15									
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	G107	食品製造実習 I		学科名	全学科 フードビジネス	学年	1年	学期	全期	
授業の方法	実習	区分	選択	単位数	1	時間数	30	開講時期	7～2月	
科目の概要	農産物、畜産物を使って加工技術を学び、商品開発を学ぶ。									
講師名	畜産学科 フードビジネス専攻 眞茅喜成							実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	農産物、畜産物の加工を行い、商品開発の知識及び製造技術を習得する。									
使用教材	講師が準備する資料、食品製造実習関連資料									
成績評価	方法	知識（40点）	技能・技術（40点）	出席率（20点）		学習態度（減点）				
	基準	農産物、畜産物を使った商品開発を通して、製造に関する知識の習得状況を判断し評価する。	農産物、畜産物を使った商品開発を通して、製造技術の習得状況を判断し評価する。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		講義中の態度、提出物により 20点を上限として除する。				
回	内 容					時間	備 考			
1～4	加工室、加工器具類の取り扱い説明 食品衛生に関する基礎知識(加工室の冷蔵庫温度管理、加工室の細菌検査等)					4				
5～12	農大産の野菜・作物を使った焼き菓子製造実習 農大産の小麦を使った製パン製造実習					8				
13～18	農大産の果樹を使ったジャム類、ドライフルーツ製造実習 農大産の果樹を使ったピューレ、パウダー製造実習					6				
19～24	農大産の畜産物を使ったハム、ベーコン、ソーセージ製造実習					6				
25～30	新商品開発 プロジェクト学習に関する試作等					6				
授業時間外に必要な学修	特になし									
再試験及び補習対象の実施基準	原則として再試及び補講は行わないが、特別な事情がある場合は時間外に補講を認める。									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	G108	食品の機能性	学科名	全学科 フードビジネス	学年	1年	学期	後期	
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	11月～2月
科目の概要	食品の機能性に関する基礎知識を身につけ、食品の機能性と生体の関係性について学ぶ。								
講師名	南九州大学 健康栄養学部 食品開発科学科 永田さやか准教授						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	食品の栄養性、嗜好性、機能性について理解する。								
使用教材	講師準備資料								
成績評価	方法	知識（90点）			出席点（10点）			学習態度（減点）	
	基準	講義終了後、評価試験を実施し、評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0	
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～3	食品とは					3			
	食品の成分と3つの機能性								
	機能性食品とは								
4～6	口内や消化管内で作用する機能 虫歯の原因になりにくい食品					3			
	おなかの調子を整える食品								
	コレステロールが高めの方のための食品								
7～9	カルシウムの吸収を助ける食品					3			
	血糖値が気になる方のための食品								
	血中中性脂肪が気になる方のための食品								
10～12	消化管内で吸収後の機能 血圧が高めの方のための食品					3			
	骨の健康が気になる方のための食品								
	血中中性脂肪や体脂肪が気になる方のための食品								
13～15	抗酸化作用をもつ食品					3			
	機能性食品の素材と開発								
	試験								
授業時間外に必要な学修	特になし								
再試験及び補習対象の実施基準	原則して再試、補講は認めない。								

令和5年度 授業計画書【シラバス】

科目名	F109	フードビジネス I	学科名	全学科 フードビジネス	学年	1年	学期	後期	
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～12月
科目の概要	<p>宮崎県のフードビジネス振興の取組を学ぶ。 企業活動で基本となる生産計画を学ぶため、専攻の年間の原料調達、加工・製造、販売計画及び生産・製造履歴の把握・管理方法を知る。また、自らが原料生産を担い、食品企業へ出荷・一次加工の委託を行うことで産地加工の意義を学ぶ。さらに商品を流通させるための卸売販売と直接販売について学ぶ。</p> <p>起業や事業立ち上げの際の新たな資金調達方法（クラウドファンディング）や人材育成（ひなたMBAフードビジネス部門）の手段、地域商社（産地型商社）の取組を知る。</p>								
講師名	ミツイン株式会社 代表取締役 黒木宏二 外部講師【県庁内】：産業政策課 企業推進担当 中村主査 県立農業大学校 フードビジネス専攻 今東、眞茅、福山、作物専攻 菊池						実務経験のある教員等による授業科目		
到達目標	食品を介した事業を継続するための基礎を学ぶ。								
使用教材	講師が配布する資料								
成績評価	方法	知識（90点）		出席点（10点）		学習態度（減点）			
	基準	14時間の講義終了後、100点満点で評価試験を実施し、得点の90%を評価点とする。		出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0		授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0			
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備考		
1～3	新たな事業資金の調達手段 クラウドファンディングの紹介					3			
4	宮崎県におけるフードビジネス振興の取組について ・フードビジネス振興構想、取組成果、施策の方向性					1			
5	原料調達から加工・製造、販売まで一連の行程を知る ・専攻内の商品規格書の整理					1			
6	・専攻内の年間の原料調達、加工・製造、販売計画を整理					1			
7	産地加工を意識して一次加工を委託する ・アグリプロセス宮崎にてかんしょの一次加工委託。 これらの結果のとりまとめ、事例研究					1			
8	調達した原料やその加工品の生産・製造履歴が分かる ・ひなたGAPに準じた自己点検（作物専攻の収穫物を題材とする）					1			
9	・HACCPに準じた自己点検（作物専攻の一次加工品を題材とする）					1			
10～11	商品の原価や売するためのコスト、儲けを考える					2			
12～13	卸売・商社を活用した販売方法を知る（BtoB） ・食品製造企業から見る卸売・商社の役割 ・模擬商談（専攻の商品を卸売へPRする場合を想定した演習）					1 1			
14	産地型商社の取組研究（地域商社こゆ財団）					1			
15	テスト、今までの振り返り、まとめ					1			
授業時間外に必要な学修									
再試験及び補習対象の実施基準									

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	G110	微生物活用 I	学科名	農学科 畜産学科 フード専攻	学年	1年	学期	後期	
授業の方法	講義・実験	区分	選択	単位数	1単位	時間数	15時間	開講時期	9月～11月
科目の概要	植物のバイオテクノロジーの実験を通し、雑菌・殺菌・滅菌の重要性やメカニズムの基礎・基本を習得し、分析機器操作や微生物を活用した食品加工の基礎・歴史を学ぶ。								
講師名	バイオテクノロジー技術指導員 阿久根治喜						実務経験のある教員等による授業科目	○	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・微生物を使った食品・醗酵食品の歴史、種類を理解する。 ・実験を通し、施設設備の実際、培地の調整・作成、実験器具の扱い、無菌操作の基本を身につける。 								
使用教材	講師準備資料・植物材料・実験施設設備・実験器具・実験機器・試薬他								
成績評価	方法	知識（90点）	出席点（10点）				学習態度（減点）		
	基準	14時間の講義・実験終了後、100点満点で評価試験を実施し、得点の90%を評価点とする。	出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0 				授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画（授業の回数やスケジュール）									
回	内 容					時間	備 考		
1～3	実験器具・実験機器・設備類の操作方法 手指の洗浄					1			
	培地の作成（MS培地・H培地・MT培地他）					2			
4～6	増殖培養 無菌操作の基本 カンショとオーキッド、観葉植物の継代培養					3			
7～9	実体顕微鏡・生物顕微鏡の使い方					1			
	植物の茎頂観察、糸状菌の顕微鏡観察と撮影の仕方					2			
10～12	微生物活用の実際（講義）					1			
	農大牛乳を使った乳酸飲料の製造					2			
13～15	南九州大学の講座で使用する実験器具の取り扱い方法					2			
	評価試験					1			
授業時間外に必要な学修	<ul style="list-style-type: none"> ○実験が主の授業であることから、全てを受講する事を基本とする。（公欠・病欠は除く） ○講義資料の復習と保管に取り組む。（資料：講師準備） ○農場現場での汚れを持ち込まない清潔な服装で実験に臨む。（白衣着用） 場所：生物工学実験室 								
再試験及び補習対象の実施基準	○管理運営要領の特別な事情に当たる場合以外、原則として再試験は実施しない。								

令和5年度 授業計画書 [シラバス]

科目名	G111	マーケティング I (フ)	学科名	フードビジネス専攻	学年	1年	学期	全期		
授業の方法	講義	区分	選択	単位数	1	時間数	15	開講時期	7月～12月	
科目の概要	<p>本講座では、企業の伴走支援を受け、農畜産物加工品の商品開発・販売のための演習を行う。そこで、商品の試作・製造に止まらず、マーケティング、商品デザイン、販売戦略、原料調達などの一連の工程を体系的に学修・実践する。</p> <p>特に本講義を通して、マーケティング演習を軸に、商品開発に向けた各工程の課題整理や計画・実績に関する議論、進捗管理を行い、商品開発・販売の手法を学ぶ。</p>									
講師名	外部講師：ミツイン株式会社 代表取締役 黒木宏二 県立農業大学校フードビジネス専攻 今東香						実務経験のある教員等による授業科目			
到達目標	1年時に、企業が実際に行う商品開発に準じた手法を学修し、全体的なプロセスを認識することで、1年生後期から2年生の商品開発までのプロセスを体系的に計画・実践する力を身に付ける。									
使用教材	講師が準備する資料									
成績評価	方法	知識 (90点)			出席点 (10点)			学習態度 (減点)		
	基準	講義後の発表とレポートで評価する。			出席率に応じた係数を乗じた点数とする。 ・95%以上 1.0 ・90%以上95%未満 0.9 ・80%以上90%未満 0.8 ・70%以上80%未満 0.7 ・70%未満 0			授業中の態度をA・B・Cの3段階で評価し、20点を上限として以下の係数を乗じて減点する。 A：問題のない授業態度 0 B：注意を受けたが改善 0.5 C：改善なし 1.0		
授業の計画 (授業の回数やスケジュール)										
回	内 容					時間	備 考			
1	現状分析・課題整理 及び 最終目標の設定 ・SWOT分析、競争要因分析 ・使用商材や最終製品のイメージづくり (別途フォローアップ講義を3時間設ける)					3				
2	市場調査 (別途フォローアップ講義を3時間 及び 校外視察研修を設ける)					3				
3	商品企画 ・商品イメージ・ストーリーの具体化 ・原料調達と加工、製法について考察 ・マーケティング方法の洗い出し ・全体スケジュールの設定 (開発～販売) (別途フォローアップ講義を3時間設ける)					3				
4	マーケティング戦略 ・販売するまでに商品を知ってもらうための活動計画 及びテスト演習					3				
5	これまでの振り返り、中間発表 (プロジェクト・意見発表 専攻内予選時) ・これまでの分析や市場調査を元に学生が考えた開発する商品と販売のためのマーケティング施策発表 ・商品開発に関する活動報告					3				
授業時間外に必要な学修	本講義は演習を基本とし、商品試作・製造やマーケティング活動等に関する実習時間は別途設ける。									
再試験及び補習対象の実施基準										